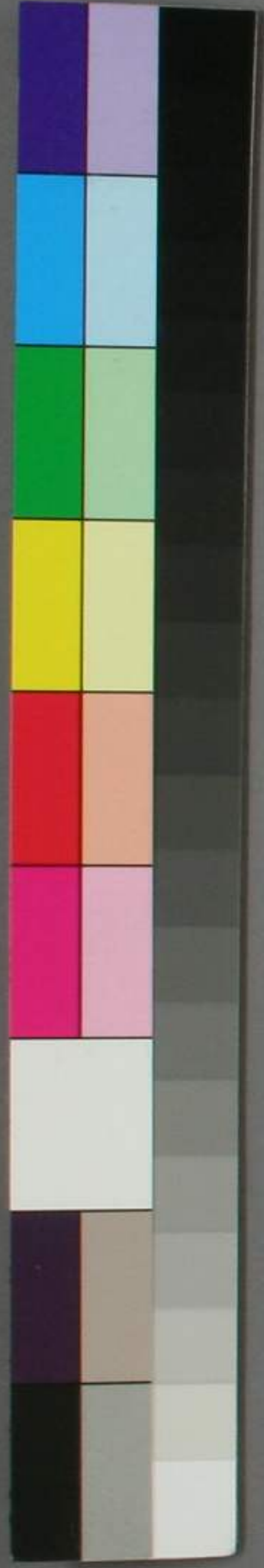


茶匙後列巻一

7多8  
635  
6





9  
635  
6

茶筴儀則卷之六



唐物並立は總旨

但並立は吾々級の茶湯也又道具と云々

此の意何事

一 茶易古瀬川の肩衝を並立ふて宗見當  
の事と云並立は汝らも皆吾人の御座る  
の事と云ては汝らも皆吾人の御座る事  
汝らも皆吾人の御座る事也

此古瀬川東の並立の御座る事也



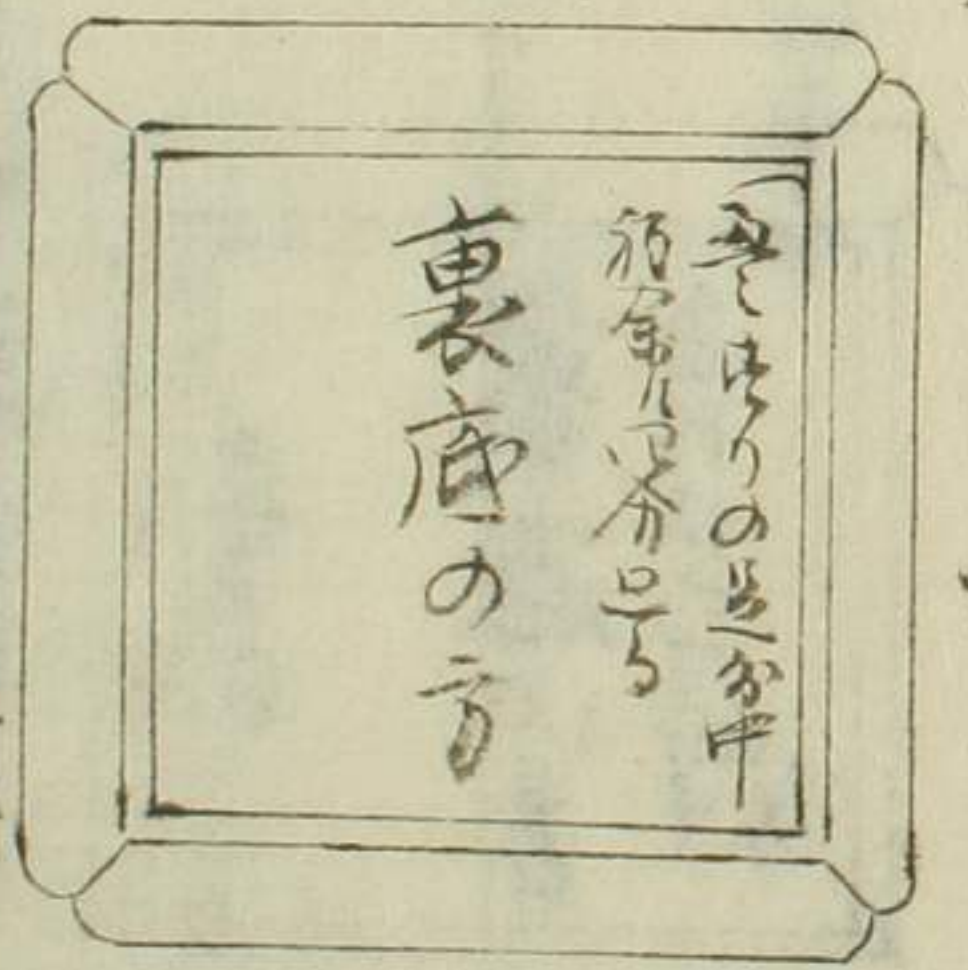
此蓋の底は蓋と敵を以てし、此は唐物に正局  
 此は付き世を化す所也、此は唐物に正局  
 唐物に正局の人の名を以てし、又唐物に正局  
 此は唐物の名を以てし、其は天月を以てし、此は唐物  
 此は唐物の名を以てし、其は天月を以てし、此は唐物  
 此は唐物の名を以てし、其は天月を以てし、此は唐物  
 此は唐物の名を以てし、其は天月を以てし、此は唐物

紹鷗松の木匳 本ハ五葉の松也

底廣サ八寸一分四方



但塗上ハ喜也又蓋也



縁具の四角の寸五分  
 上蓋ハ八寸(内蓋有外)を以てし  
 下蓋ハ六寸(内蓋有内)を以てし

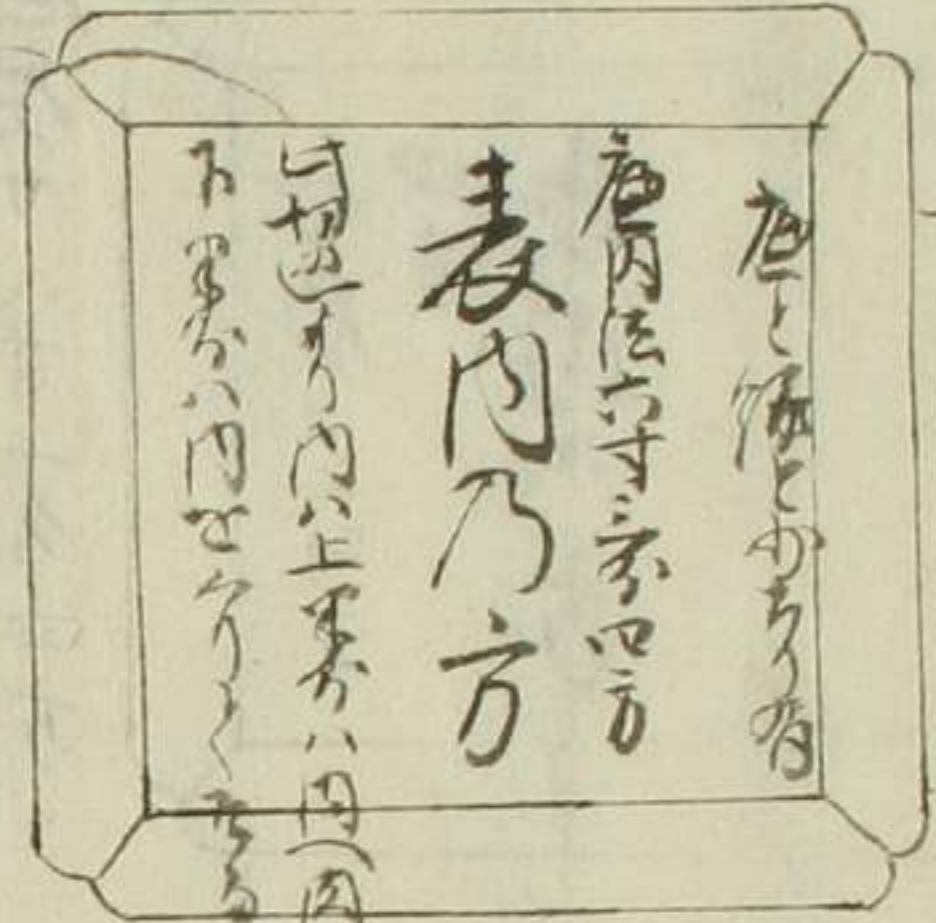


利休枳の本盆

惣塗唐溜木の枳の本  
 五枚目より内へ五目横塗先客付

惣廣廿八寸四分四方

縁貝の口



はわののる外(さうり)の

さうりの内(金)ツル

は角四方を画(か)くすうすうに茶(ち)ま(ま)り(り)し(し)ら

重(かさ)り(り)縁(えり)の(の)口(くち)



裏(うら)の(の)る(る)方(かた)の(の)

切(き)り(り)重(かさ)り(り)中(ちゆう)の(の)内(うち)金(かね)者(もの)

利休枳の本盆

一 金物(かねもの)の(の)茶(ち)入(いれ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

きり(り)し(し)て(て)茶(ち)入(いれ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

執(と)り(り)て(て)茶(ち)入(いれ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

茶(ち)入(いれ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

一 唐(から)の(の)茶(ち)入(いれ)の(の)代(しろ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

茶(ち)入(いれ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

右(みぎ)の(の)茶(ち)入(いれ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

茶(ち)入(いれ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て

一 唐(から)の(の)茶(ち)入(いれ)の(の)代(しろ)を(を)盆(ぼん)に(に)収(こ)め(め)し(し)山(やま)手(て)を(を)木(き)貝(がい)の(の)油(あぶら)を(を)て



益子ぬらん物なるをくし物形益をれ宜く相よ  
かきしりし物なる物形宜く小の二升なる形を  
不買し升ありしりし物形宜く小の二升なる  
兼又と益し兼せし又きり兼せし相なり  
し物なる

一初所より兼入益し金庫なりしりし物なり  
但し、小の益物を兼せしりし物なり  
り兼せしりし物なり  
り兼せしりし物なり

物名目ハ益子ぬらん物なり

一貫下りし物なり兼入し物形益をれ宜く相よ  
かきしりし物なる物形宜く小の二升なる形を  
不買し升ありしりし物形宜く小の二升なる

一兼入益し金庫なりし物なり  
但し、小の益物を兼せしりし物なり  
り兼せしりし物なり  
り兼せしりし物なり

也物之益子ぬらん物なり



土中の極ふ心お能く二丈とこりしての信の太  
 め心おきまのし向きの極の底ぬらの糸の極め  
 極より益の心法いすた大方にす斗がして  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 一しあまの心法いすた大方にす斗がして  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五

五箇の油のくつこと油瓶と云油瓶の五方よ  
 びり油と油ととも油めらるまを美人の心  
 中ぬらるること又油瓶の油の心と油  
 心とも油の上をぬらるる油と云も有の  
 もらるること油の心法いすた大方にす斗がして  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五  
 若くは五の目陽極の重世より目貝五九五

七の心法

一 常那の石物の心法いすた大方にす斗がして

一 常那の石物の心法いすた大方にす斗がして



此洋銀貨なりとも唐物の茶入なりとも唐物の  
筒なりとも唐物をしるはは三筆と文相  
しるはは唐物の茶入なりとも唐物の  
きりぎりすなりとも唐物の  
唐物の

一 口五寸のしるはは唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の

一 蓋の茶入の唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の

一 唐物立蓋の唐物の茶入

一 水筒の唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の  
唐物の茶入なりとも唐物の

唐物の茶入なりとも唐物の



















一 ぬくそとさんきなるおきおめりおまふはのふり  
 勝ゆのきく柄端をわしきかきし上向くま  
 他盤まきおめりし"世盤"那まのほりりし  
 けの糸のほ解くまあくるきし

一 茶をたききし 柄抄とらけり見合せま 奥のまき  
 ふくまきわきし 水指 塗蓋とゆき茶印まき  
 たるのわし 茶碗のまきわしわき茶碗のまき  
 一客付(四)しとまき

他丸まきしとまきしし 物まき

一 柄抄たききし ぬきまきとまき茶碗のまきしきり蓋ま  
 きたくまきし 茶碗のまきししぬきまきし  
 右まきし 湯をたきしぬきし茶碗まきし 柄抄  
 たききし 中蓋まきの 柄抄たききし 蓋まきし

他柄抄ぬきまきし 茶碗のまきししぬきまきし 柄端ま  
 きししぬきししぬきまきしぬきまきし  
 ぬきまきし

一 茶碗たききし 茶碗茶をきししぬきまきししぬき  
 柄抄の柄端ぬきまきしぬきまきしぬきまきし











を若くして重 重各たてはてきた  
右中や重なり

心とていふ重各をよみては茶各の偏も不可

にくひり重

一右を重なりて 右に偏重き端を以て中

茶碗出 偏ゆゑ時ゆゑにたを 茶碗

茶碗出 重なりたる

偏ゆゑに茶碗より重なり並出 重なり

ゆゑに重なり 又を重なり二の折り

重なり

一 柄杓右を重なりて 右を金のみ重なり如常中

とゆゑに 柄杓右を重なりて重なりを重なりと重なり

一待

但しかりて重なり 接投ゆゑに又も重なり

にたゆめたる

一 右を重なりて 柄杓右を重なりて 右を

重なりて 重なりて 柄杓右を重なりて 右を

重なりて 重なりて 柄杓右を重なりて 右を

重なりて 重なりて 柄杓右を重なりて 右を



但至極之重なる時は如何に下へ申す時  
を答へぬ中とあるは、時を重なる物も無  
る目め所の極大目言の如きは、無主なる  
苦重なり、一宮とあるは、深業も前大目立の如  
く也

一 正字を重なるは、何れも清浄なるに如く、其  
の重なるの如く、何れも清浄なるに如く、其  
の重なるの如く、但し何れも清浄なるに如く、其  
の重なるの如く、

此は世に於て、縁の重なるを申してあるなり

一 是正の同じ字は、如く、何れも清浄なるに如く、其  
の重なるの如く、但し何れも清浄なるに如く、其  
の重なるの如く、

一 正字より重なるは、何れも清浄なるに如く、其  
の重なるの如く、但し何れも清浄なるに如く、其  
の重なるの如く、



右より葉脈よりたのぼる一葉の下の葉は右の指  
母の葉をたのぼる一葉也一葉也

但し右の葉脈よりたのぼる一葉の下の葉は右の指  
母の葉をたのぼる一葉也一葉也

濃茶の中より葉の部は右

一葉脈ありぬりの中より右より葉をたのぼる一葉  
母の葉をたのぼる一葉也一葉也  
一右より葉をたのぼる一葉也一葉也  
かゝる

但し右の葉脈よりたのぼる一葉の下の葉は右の指

母の葉をたのぼる一葉也一葉也

濃茶の中より葉の部は右

一葉脈ありぬりの中より右より葉をたのぼる一葉

母の葉をたのぼる一葉也一葉也

一右より葉をたのぼる一葉也一葉也

かゝる

但し右の葉脈よりたのぼる一葉の下の葉は右の指

母の葉をたのぼる一葉也一葉也



如也一 此後の茶室を造るに好まふに依て

(茶室の造り)

一 正室は山並みの中を接収して日影の落後  
別室として進出するに茶室の由あるに依り  
た月洞の中を先室と名をとり又その室大に  
栢材を用いたる栢材は水十分の湯を碗に茶を  
栢材を茶室より山并みの先室をたき名を  
後一 中茶室をすてきて正室の中を大目見  
のたきの角より茶室の行を造るに好むに依りて

茶室の造り 一 此の茶室は山並みの中を接収して日影の落後

栢材を用いたる栢材は水十分の湯を碗に茶を  
栢材を茶室より山并みの先室をたき名を  
後一 中茶室をすてきて正室の中を大目見  
のたきの角より茶室の行を造るに好むに依りて

但し此茶室は山並みの中を接収して日影の落後  
茶室の造り 一 此の茶室は山並みの中を接収して日影の落後  
栢材を用いたる栢材は水十分の湯を碗に茶を  
栢材を茶室より山并みの先室をたき名を  
後一 中茶室をすてきて正室の中を大目見  
のたきの角より茶室の行を造るに好むに依りて







の体共好くするあり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
く所々好くハるるあり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
華人の口癖を好くするあり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
華人の口癖を好くするあり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
右の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
右の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
右の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
右の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
右の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
右の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故

の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故  
の形跡あり 華人の形跡あり 昔のまじりと故

華人の形跡あり  
昔のまじりと故









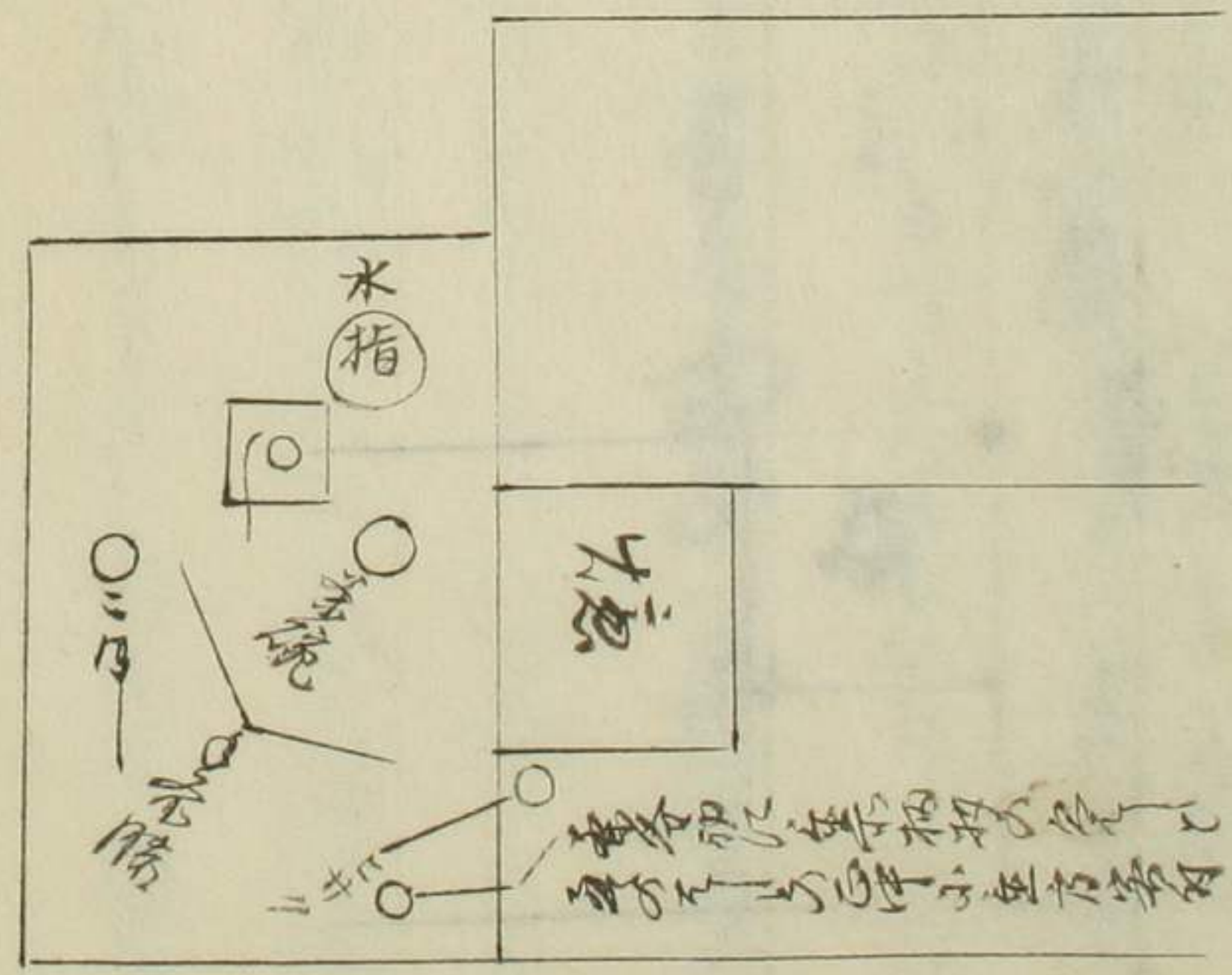
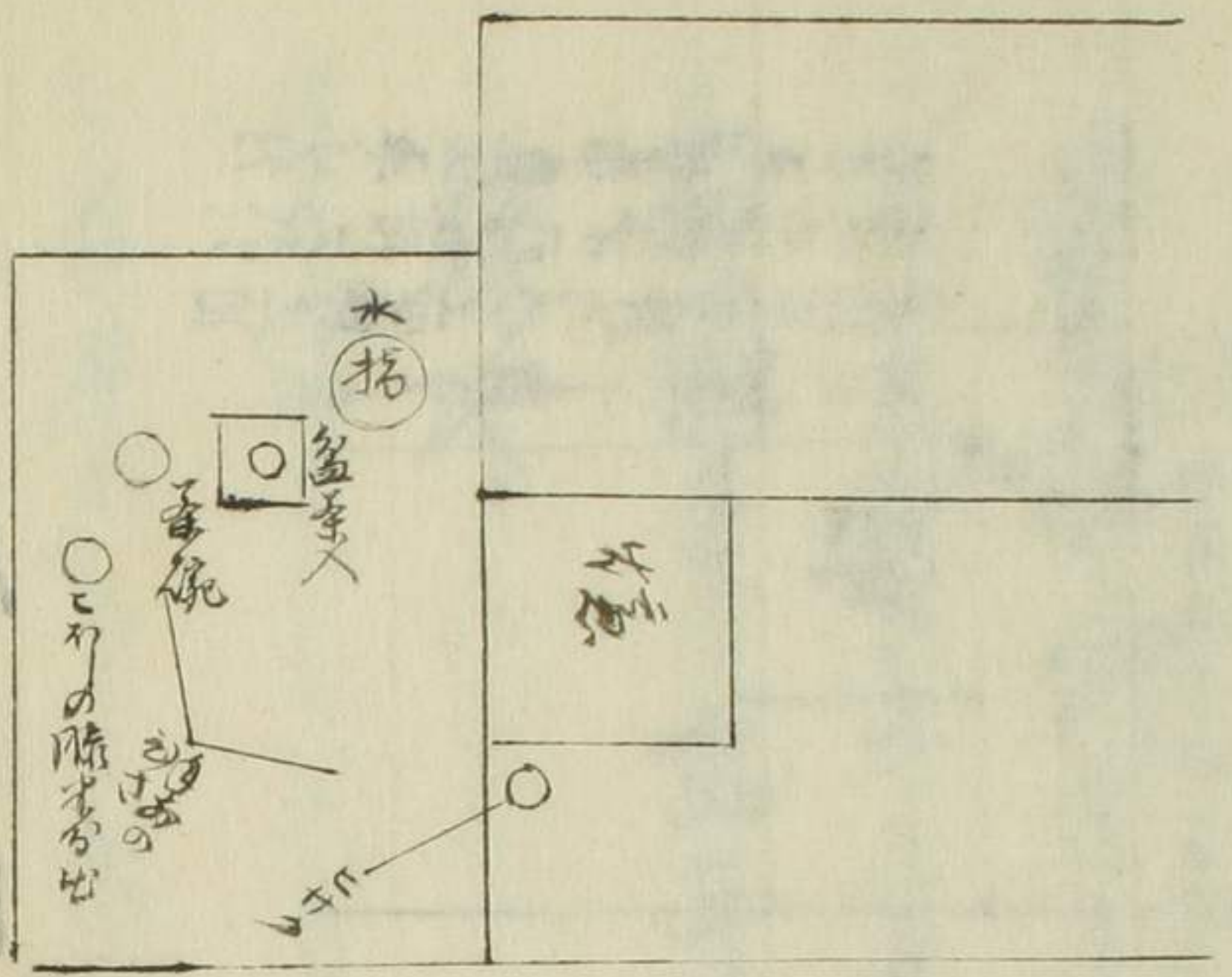




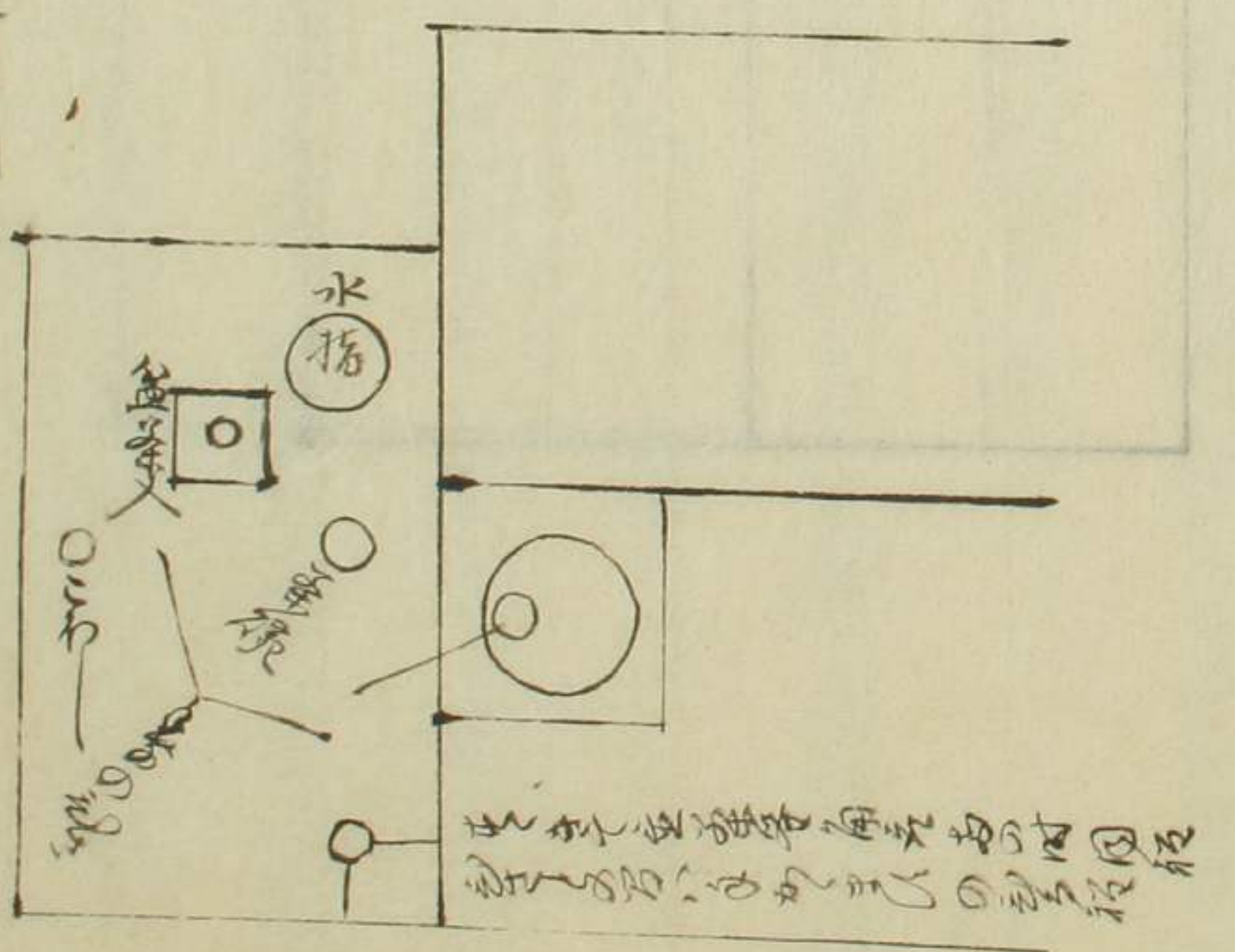
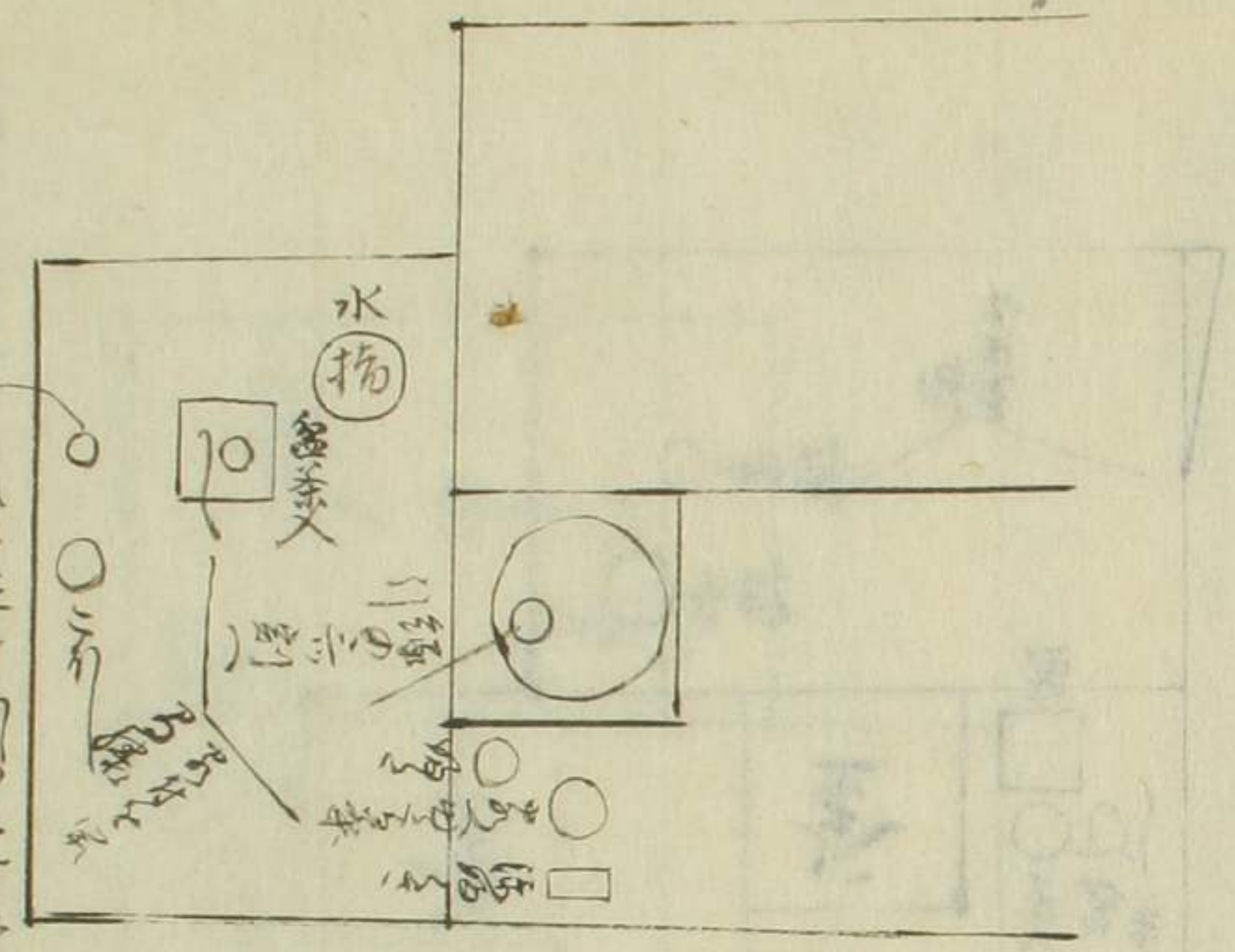


大目魚立より前魚系

同前魚系より



大目魚立より前魚系より同前魚系より



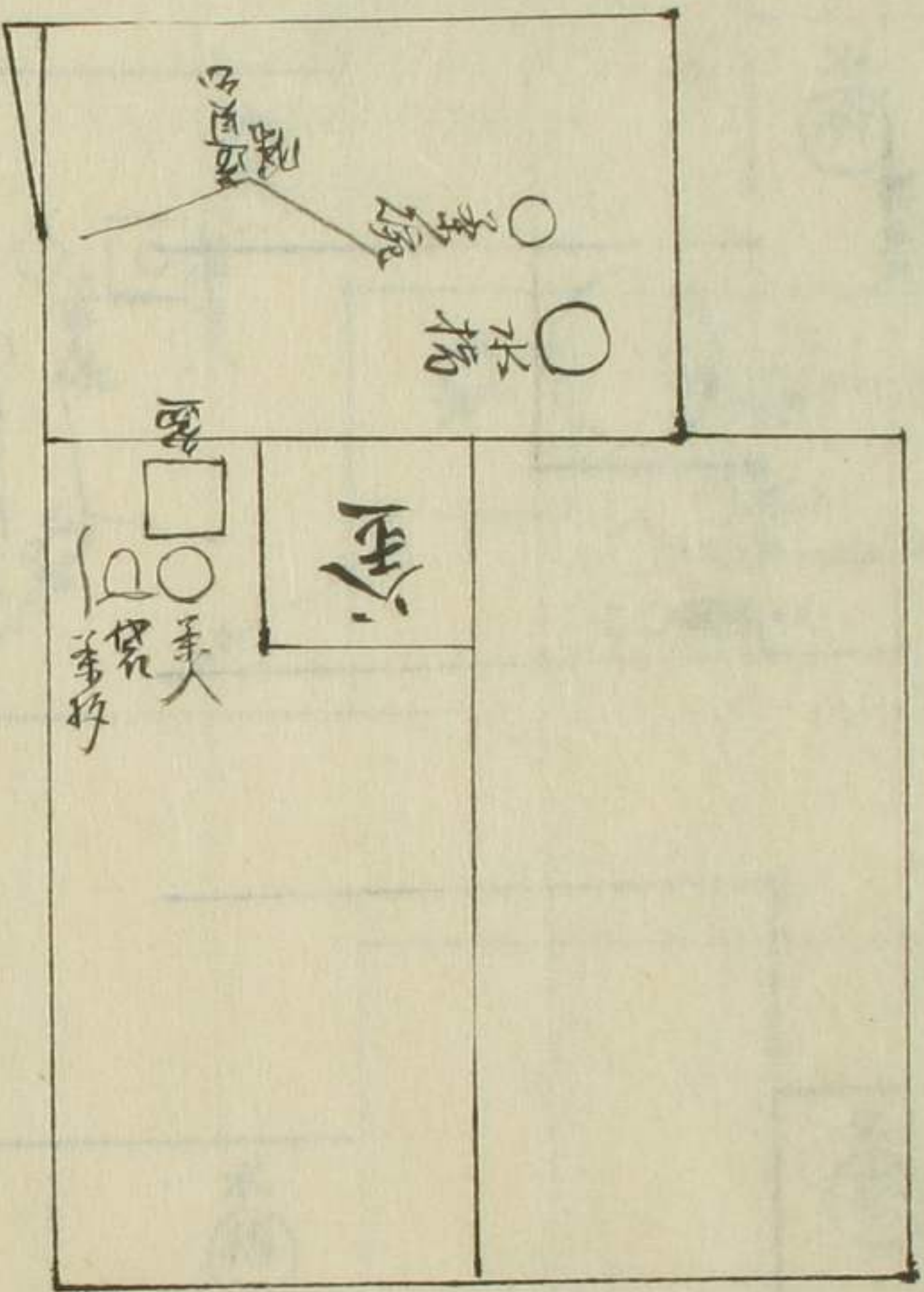
大目魚立より前魚系より

大目魚立より前魚系より

大目魚立より前魚系より

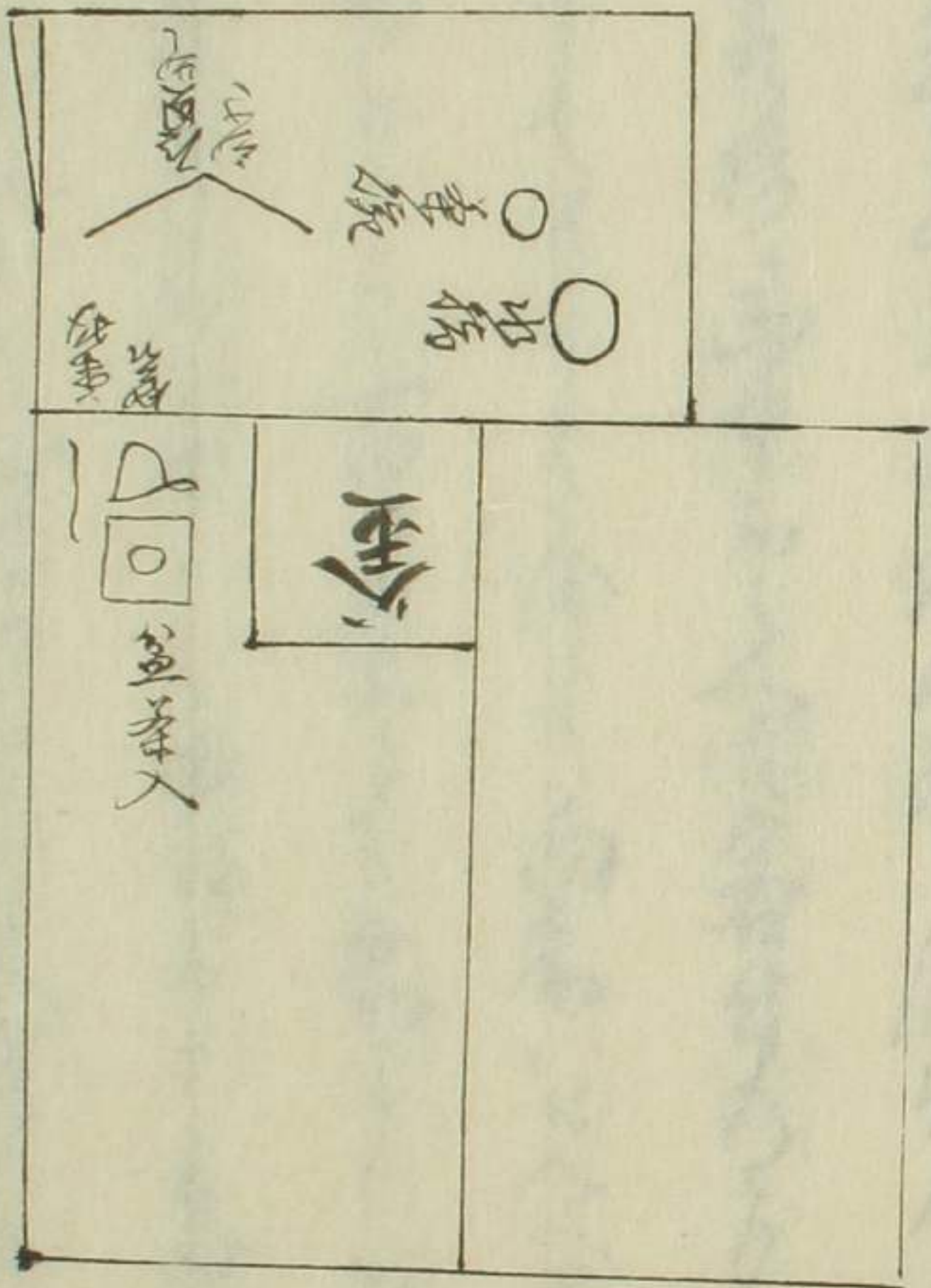


大目盆立客入道具出帳



大目盆立客入道具出帳

大目盆立客物の系入盆小系出圖









一 膳室の窓のまはりに一丈六尺の六角の  
窓を設けし

一 御座敷の窓のまはりに一丈六尺の六角の  
窓を設けし右の窓は左の窓より一丈  
六尺の右に揚りたる二の割の窓を並べて  
設けし

一 茶室のまはりに一丈六尺の六角の窓を  
設けし右の窓は左の窓より一丈六尺の  
右に揚りたる二の割の窓を並べて設けし  
右の窓は左の窓より一丈六尺の右に  
揚りたる二の割の窓を並べて設けし

けし

一 茶室のまはりに一丈六尺の六角の窓を  
設けし右の窓は左の窓より一丈六尺の  
右に揚りたる二の割の窓を並べて設けし

一 茶室のまはりに一丈六尺の六角の窓を  
設けし右の窓は左の窓より一丈六尺の  
右に揚りたる二の割の窓を並べて設けし

一 茶室のまはりに一丈六尺の六角の窓を  
設けし右の窓は左の窓より一丈六尺の  
右に揚りたる二の割の窓を並べて設けし  
右の窓は左の窓より一丈六尺の右に  
揚りたる二の割の窓を並べて設けし  
右の窓は左の窓より一丈六尺の右に  
揚りたる二の割の窓を並べて設けし  
右の窓は左の窓より一丈六尺の右に  
揚りたる二の割の窓を並べて設けし



河津の舟のさし主付のじきくちまきくち舟のまき  
くちまきの録簿のまのくちまきをまきまき  
は付まきまきのまきまきまきまきまき  
まきまきまき

又河津の舟のさし主付のじきくちまきくち舟のまき  
くちまきの録簿のまのくちまきをまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

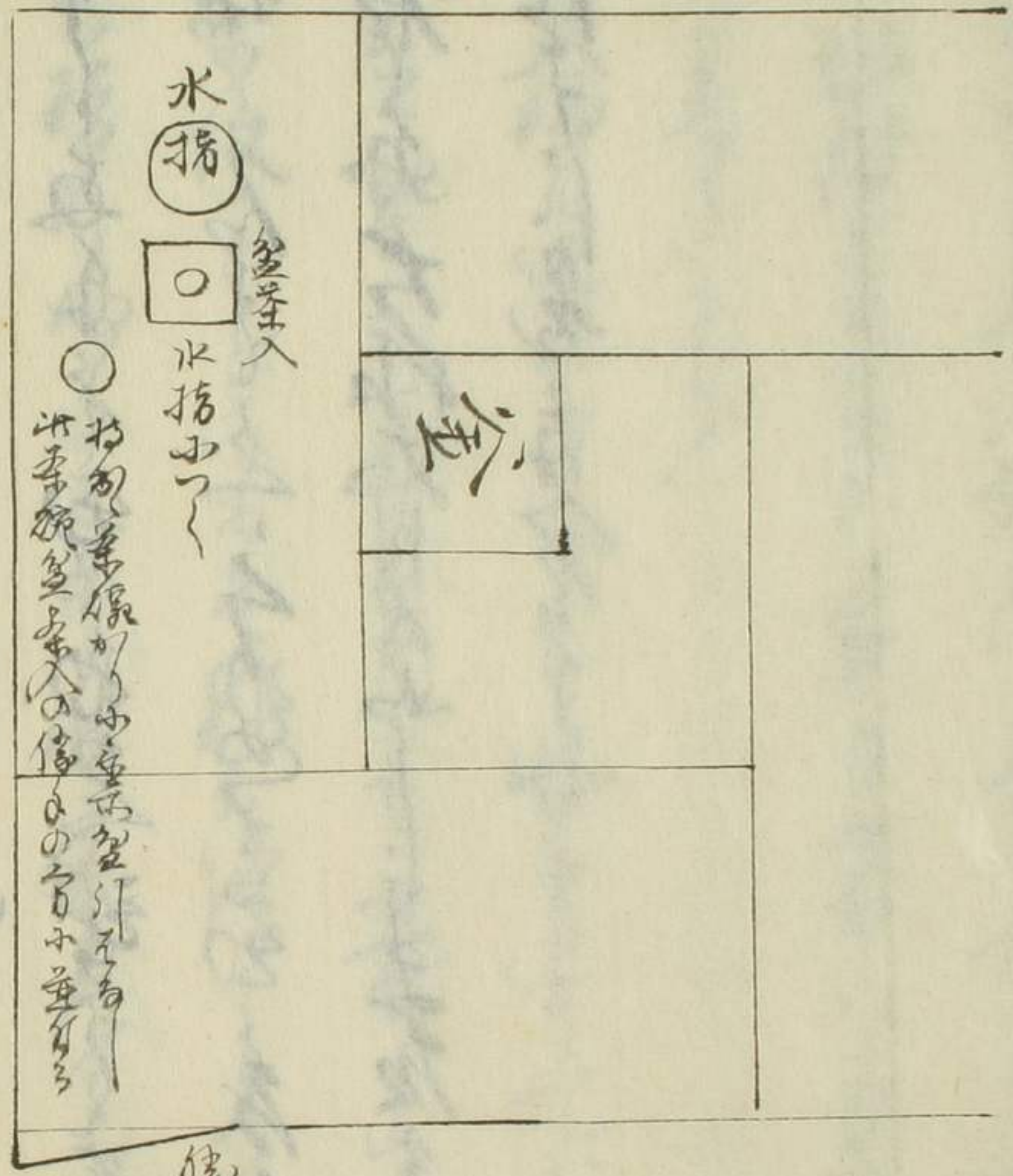
一 舟のまきまきのまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまき

舟のまきまきのまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまき

舟のまきまきのまきまきまきまきまきまき

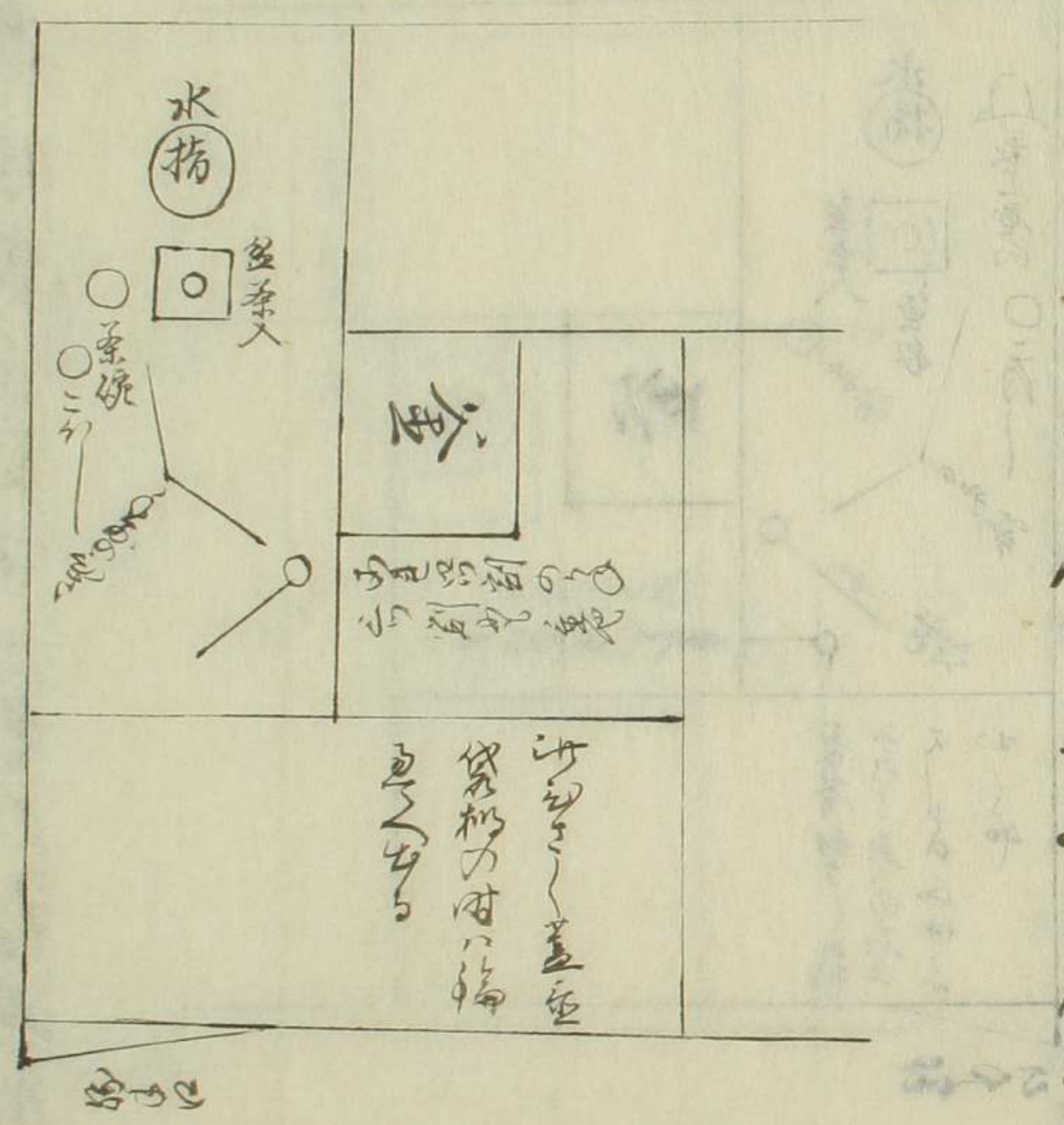


四角寸包立脩付乃圖



修付

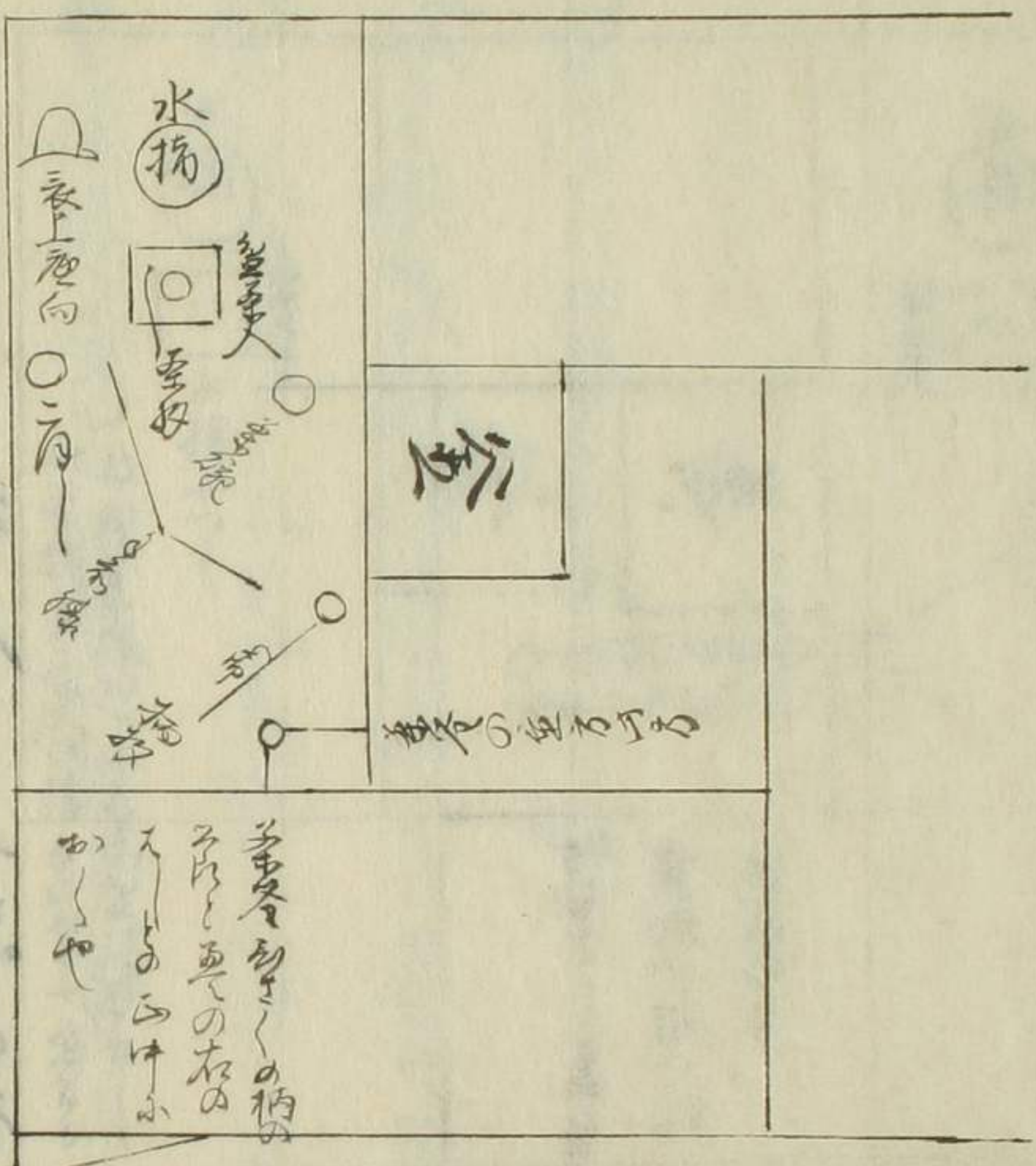
四角寸包立脩付乃圖



修付

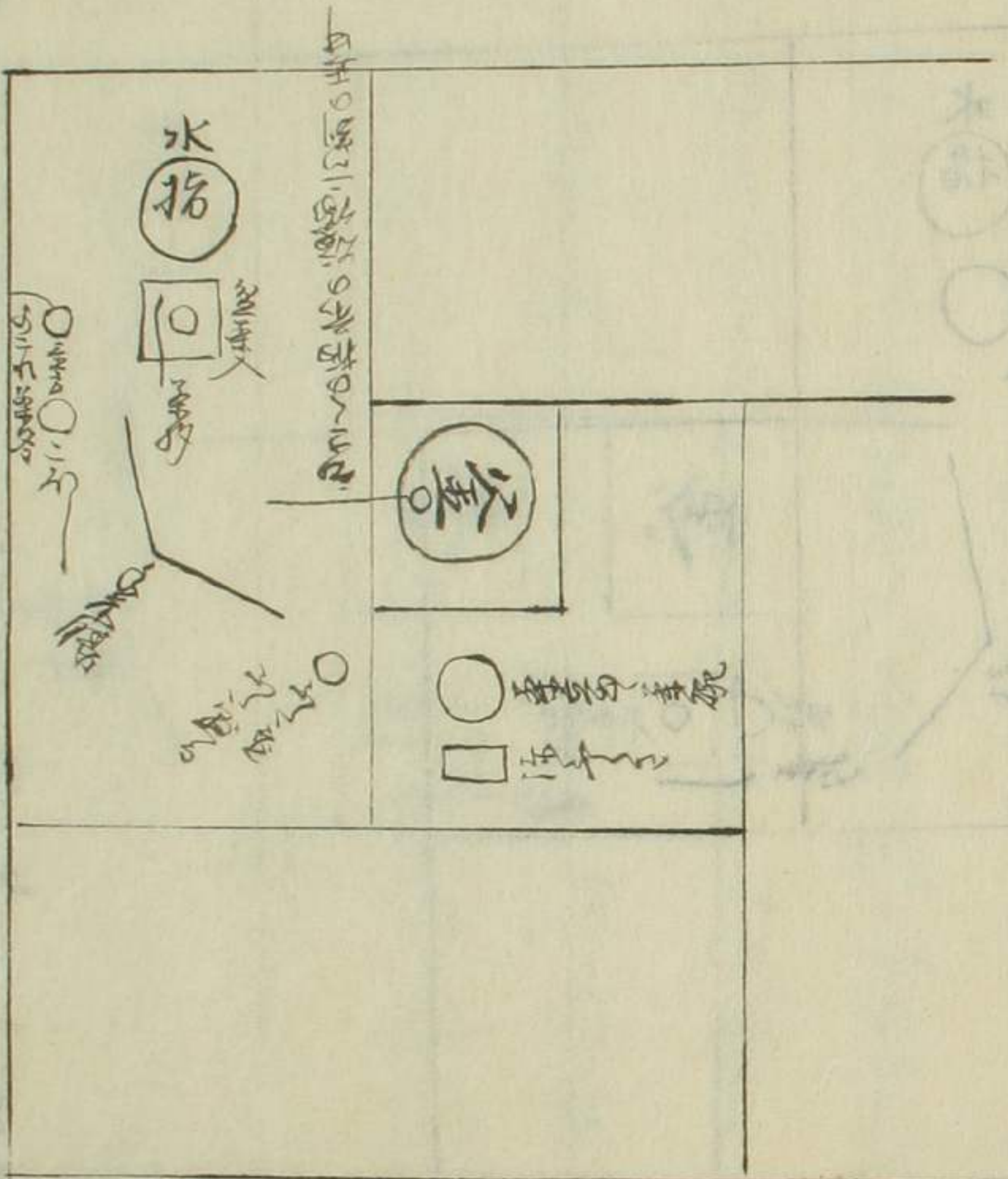


四角の半盆の中心に湯沸かす器具



湯沸かす

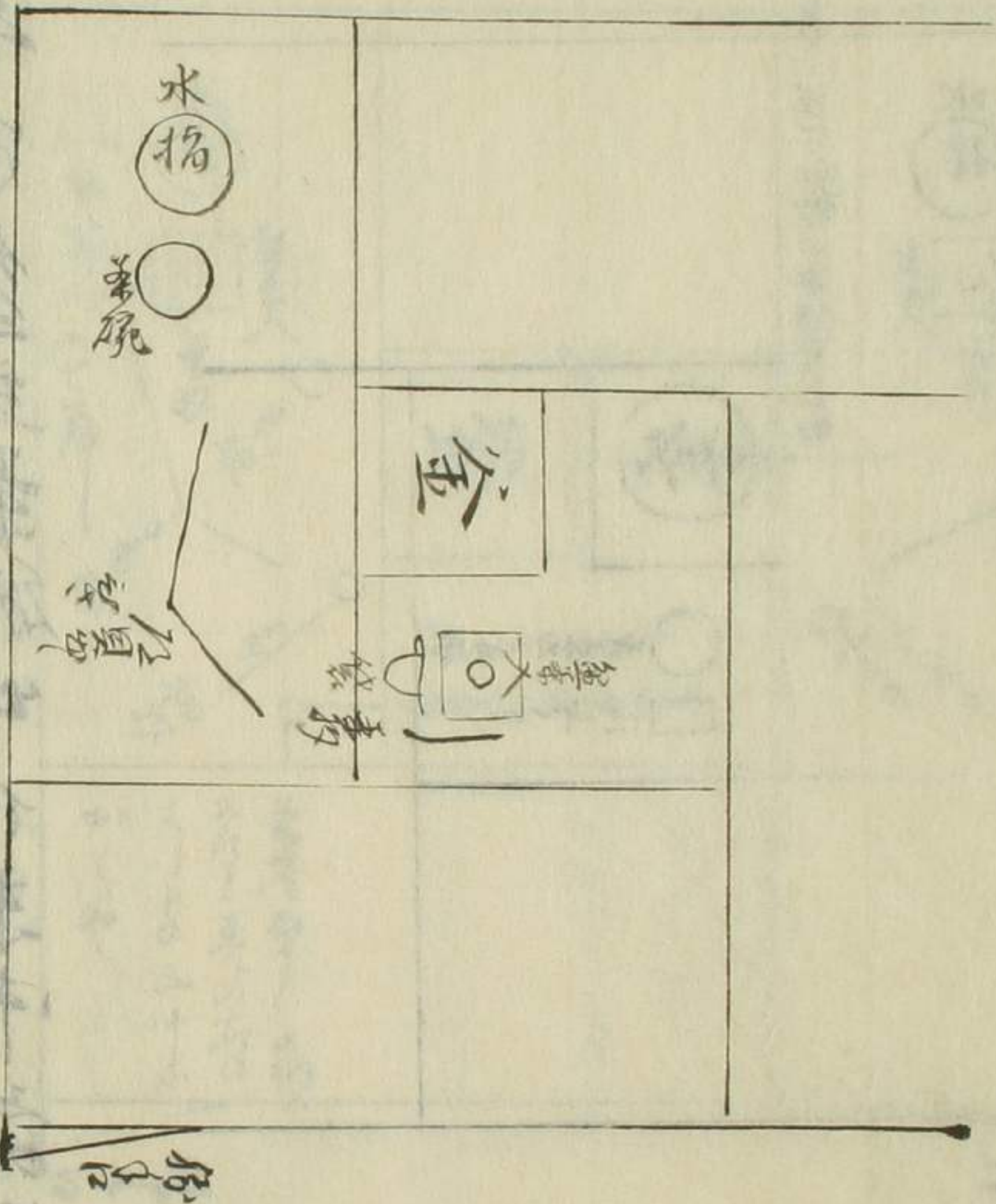
四角の半盆の中心に湯沸かす器具



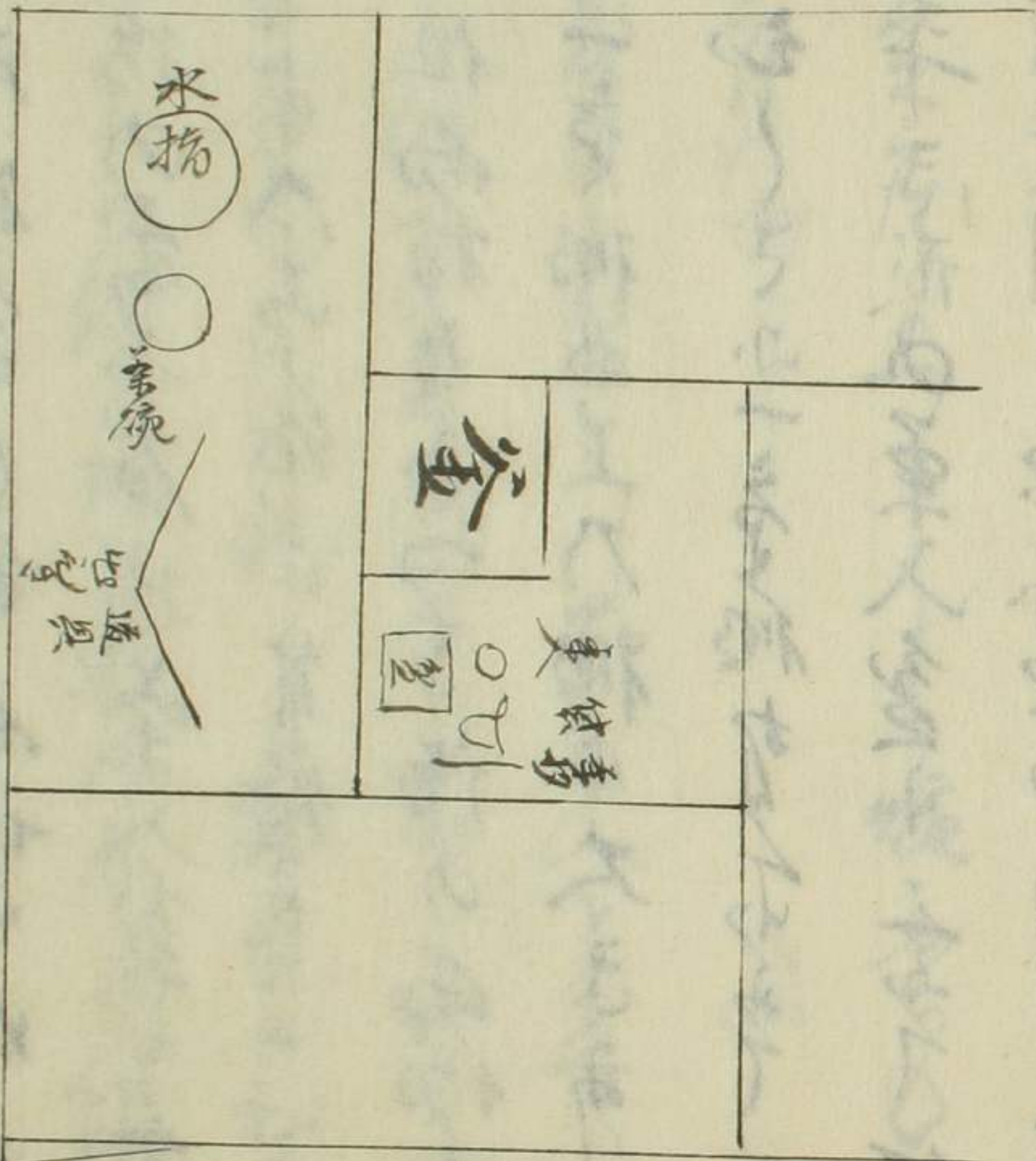
湯沸かす



四角すまを三立名物の茶人客一出極の圖



四角すまを三立名物の茶人客一出極の圖





唐物盆より新白切心燻立

一水持の盆より唐物茶入盆より高き間の湯に  
入るすの盆は盆に付侍り

但向板をきつき滑の白切不侍より角

一茶櫃の上乃櫃の又きみして下の櫃の

むくさふ一茶櫃有るやそへハ櫃の二つは

平き形の茶入盆より高き侍りより高き

一蓋を盆の燻縁に別れの右の角より白と

おとの湯と名角をのう縁より蓋よりと高き

舟より蓋柄物蓋を盆より高き侍り柄は蓋

より門金

一蓋を盆より高き侍り燻縁より高き侍り蓋は

てうた

一二反目より盆より高き侍り茶入と盆より高き侍り

より高き侍り蓋の向板より高き侍り

一茶櫃より高き侍り初蓋より高き侍り

席より高き侍り柄より高き侍り縁より高き侍り

より高き侍り蓋より高き侍り後より高き侍り



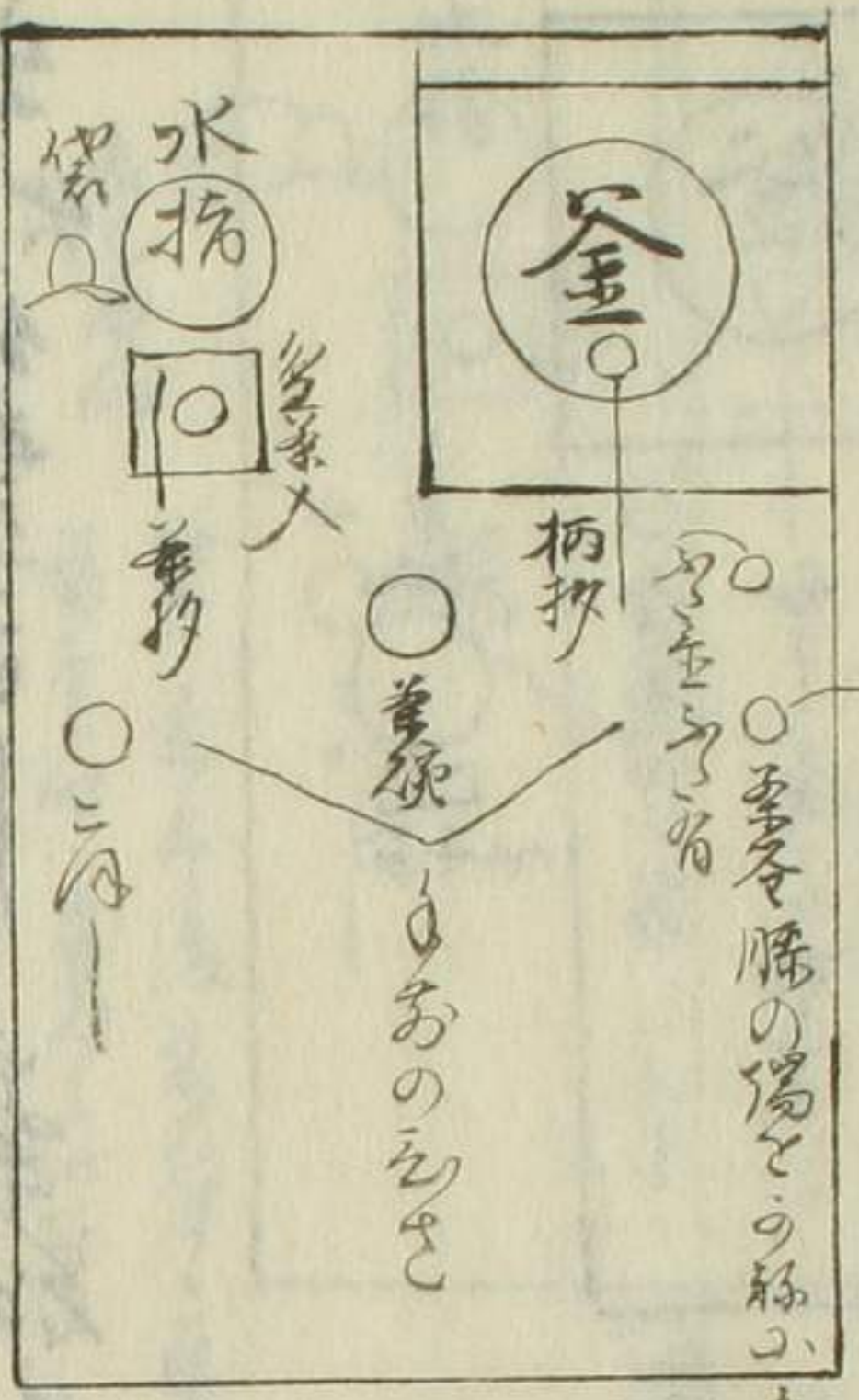








白切出糖茶立茶各々其のほは茶の圖



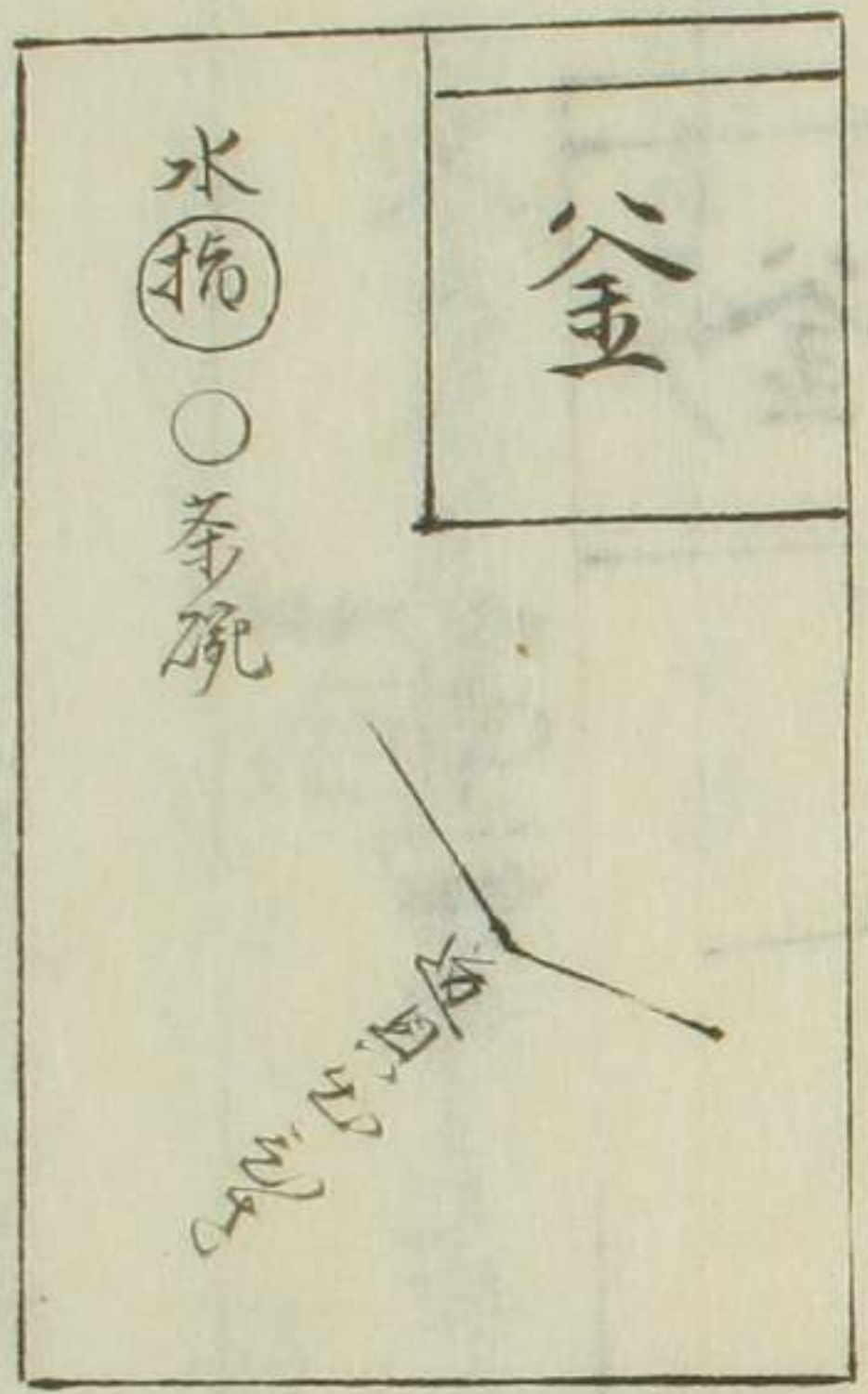
此の茶立三ツノ五ツ

○茶碗の湯をのこすは茶の味をいれさう前

○茶碗の湯をのこすは茶の味をいれさう前

○二ツ

白切出糖茶(透目)茶立茶入の茶



茶立  
茶碗  
茶杓







ゆきまきし同様にわし極小角にけし門放り  
一 主のねきりし柄ぬり柄のり角にけしまきり  
一 主のまきは極小角にけし柄にけし  
一 葉入たるまきりたるのりまきりまきり  
まきり

但世葉入まきのたのりまきりし大極中まきり  
まきりし又まきのまきりたるまきりまきり  
まきりしまきりたるまきりまきり  
一 まきりまきりたるまきりまきりまきり

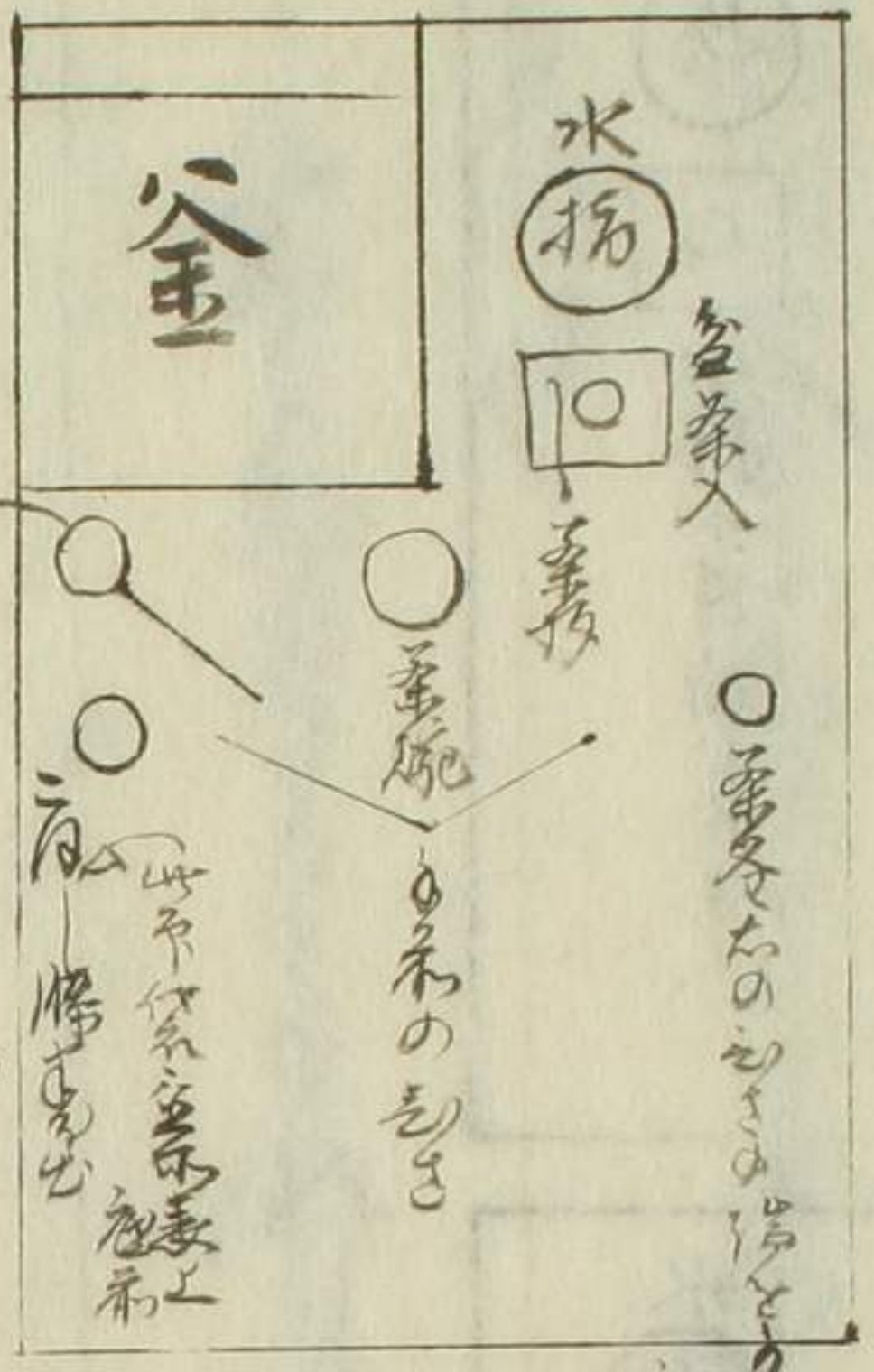
同のりまきりまきりまきりまきりまきり  
極小のりまきり  
一 葉入まきりしまきりまきりまきりまきり  
まきりまきりまきりまきりまきりまきり  
まきり  
まきりまきりまきりまきりまきりまきり  
まきりまきりまきりまきりまきりまきり  
まきりまきりまきりまきりまきりまきり  
一 葉入まきりまきりまきりまきりまきり







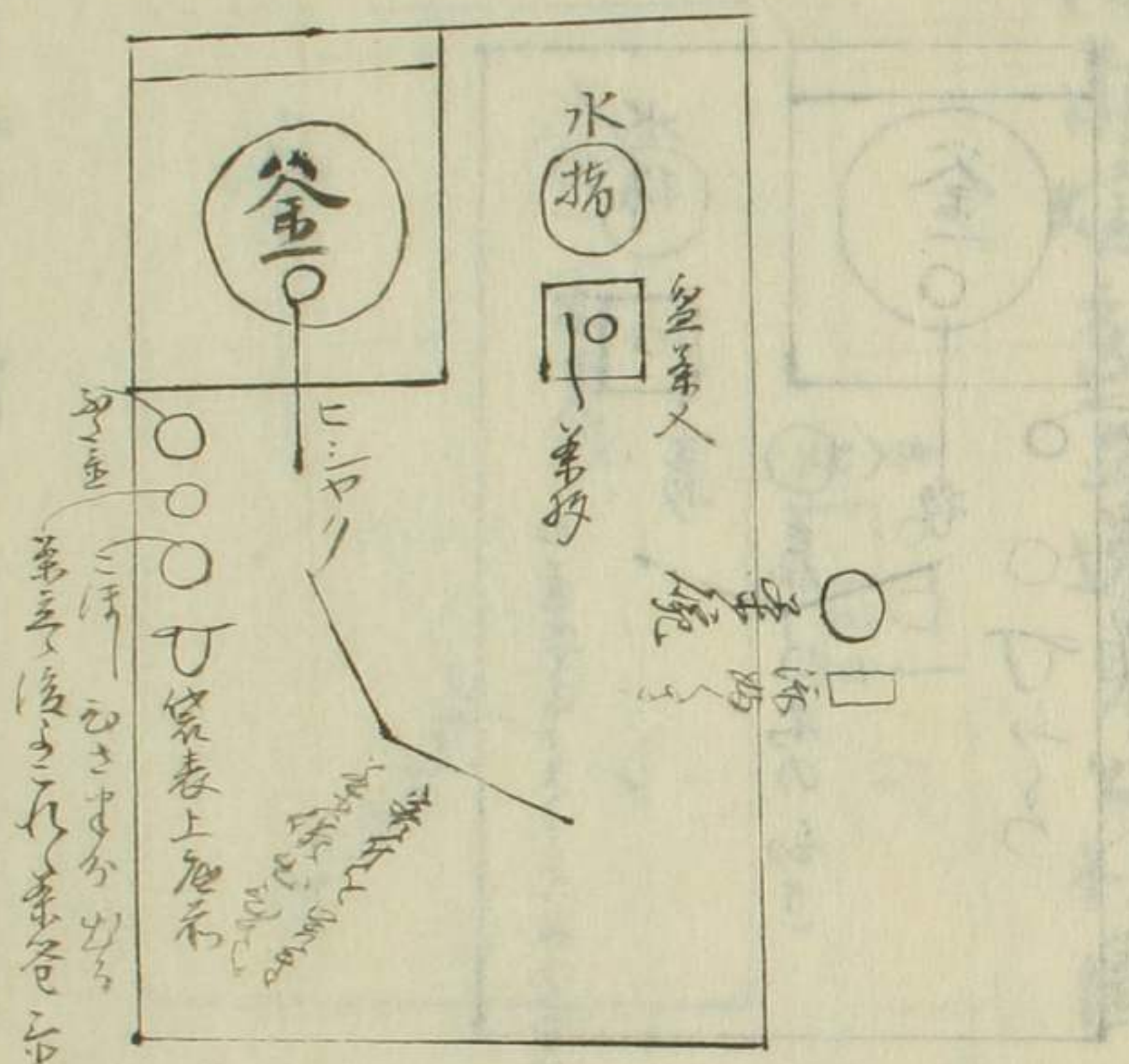
向切角爐立釜各立釜下の号



釜各立釜下の号  
 ○釜各立釜下の号  
 □釜各立釜下の号  
 右の号は前へ

向切角爐立釜各立釜下の号

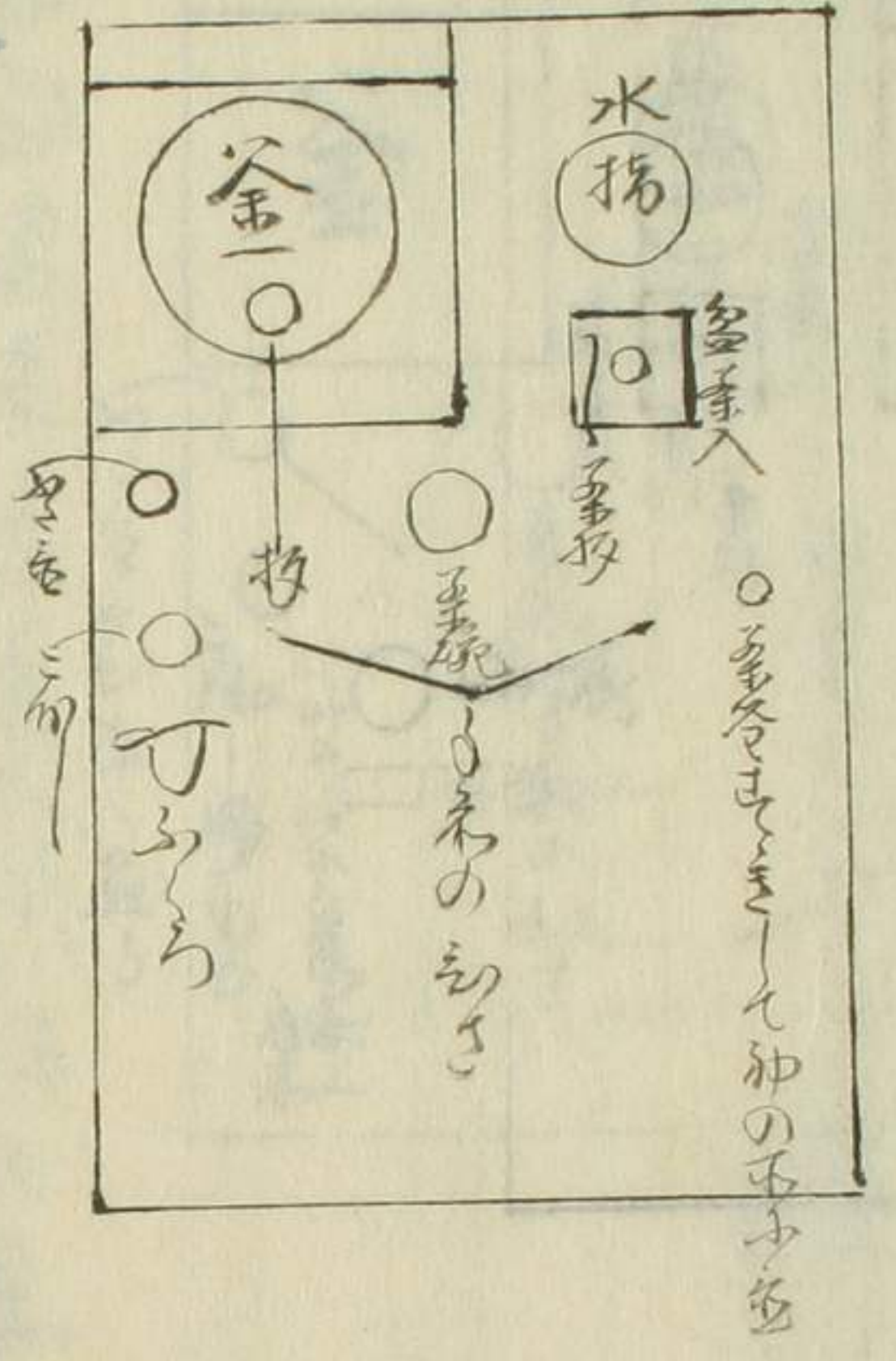
向切角爐立釜各立釜下の号(切圖)



釜各立釜下の号  
 ○釜各立釜下の号  
 □釜各立釜下の号  
 右の号は前へ

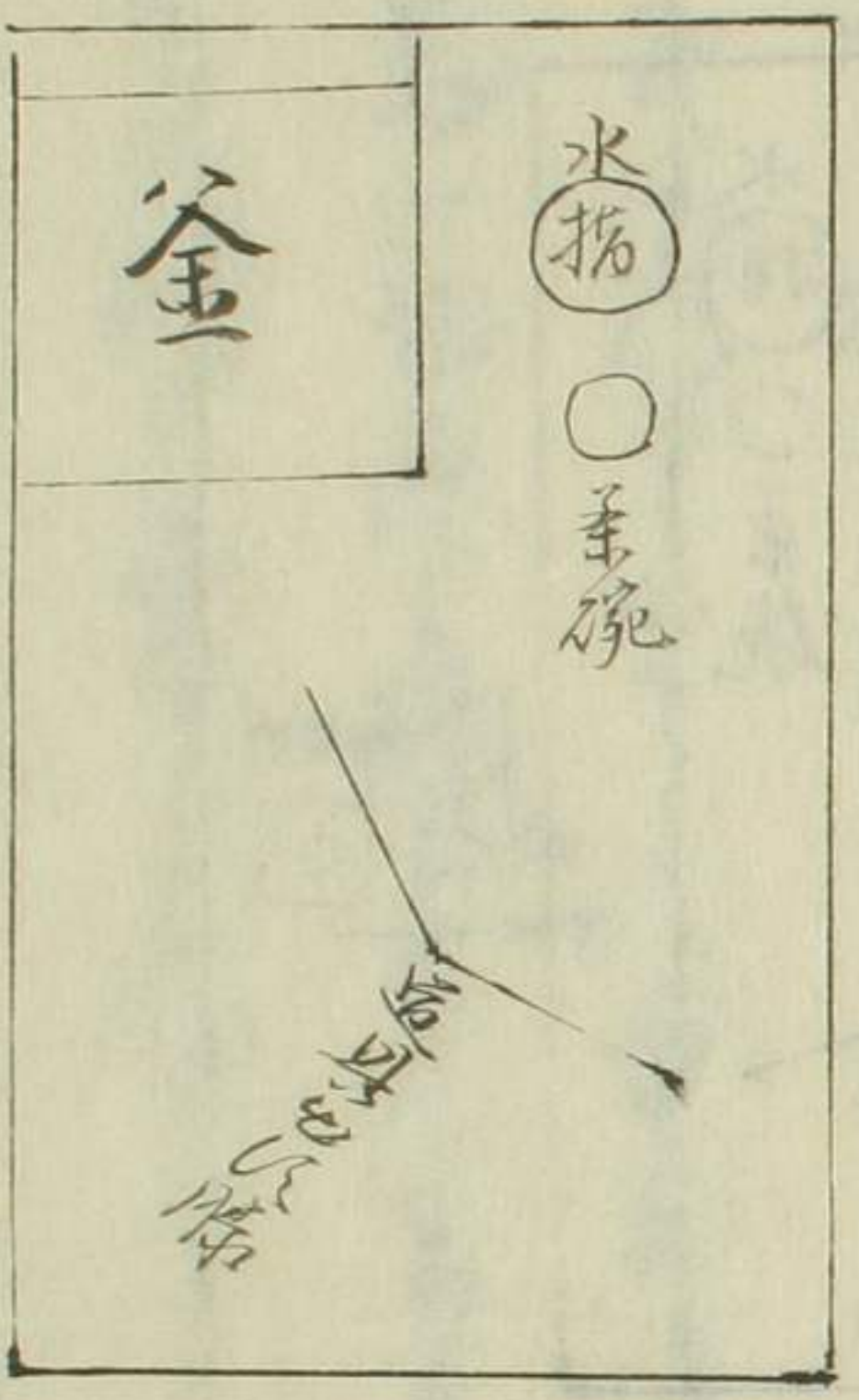


向切角燗釜立茶釜の後の様子



向切角燗釜立茶釜の後の様子

向切角燗釜立茶釜の図



向切角燗釜立茶釜の図











一 膝の下方と表と上底と向をくたのひを上  
向て置く

但大目その中板袋縫の釘又二重の板を  
時の居なくを腰と延く大を重袋縫の  
釘は明くは時の居なくを腰と延く大を  
重く板の緒を拵たその袋の方を拵く  
然る方、緒の端の方と顔の方と印をく  
端の方、釘の根も板のようを袋の方表の方  
き竹のたし、二重の板を拵くは、

かゆり、一、表を拵くは、又、小垂山を拵くは、  
竹のたし、一、袋、端の方、拵くは、  
を拵くは、一、竹、の、た、し、

一 茶袋の右の端のたしを、拵くは、一、板、の、目、を、  
同じく、拵くは、一、板、の、目、を、拵くは、  
角、端、を、拵くは、

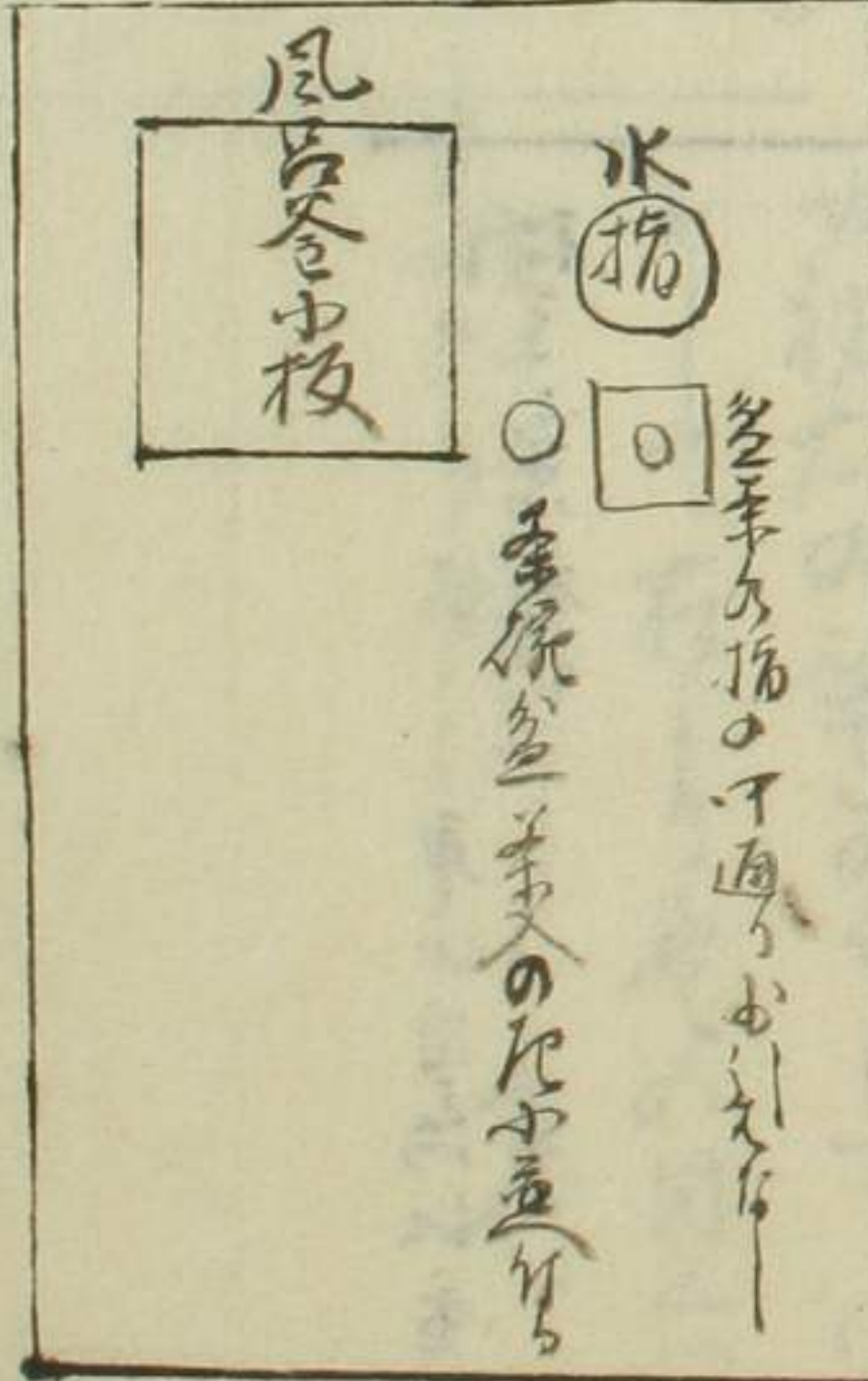
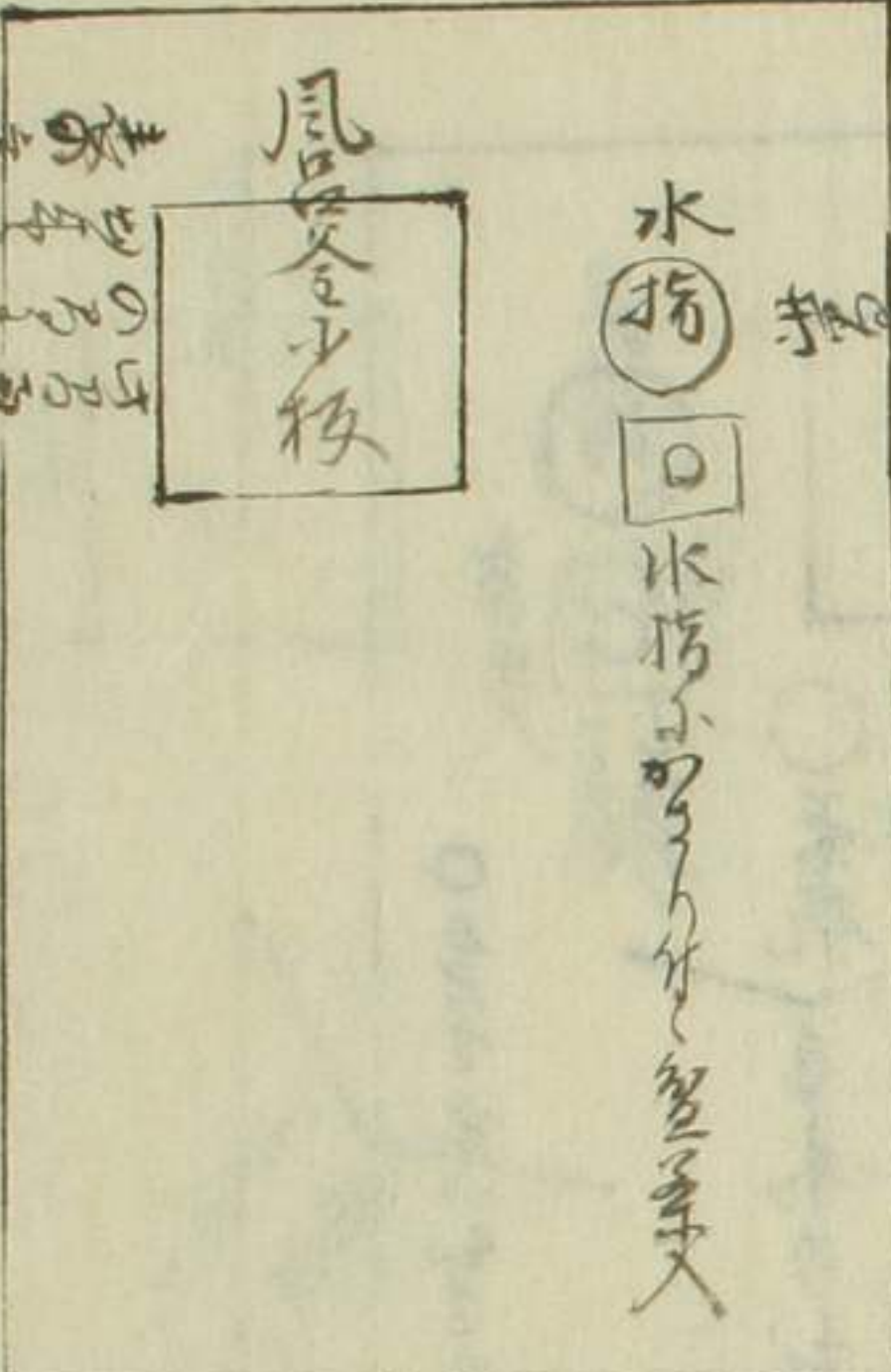
一 板、の、目、を、拵くは、一、板、の、目、を、拵くは、  
一 板、の、目、を、拵くは、一、板、の、目、を、拵くは、  
一 板、の、目、を、拵くは、一、板、の、目、を、拵くは、



の付水波板より切取し〜  
 湯より取り付切取し〜  
 く液し〜  
 えを〜

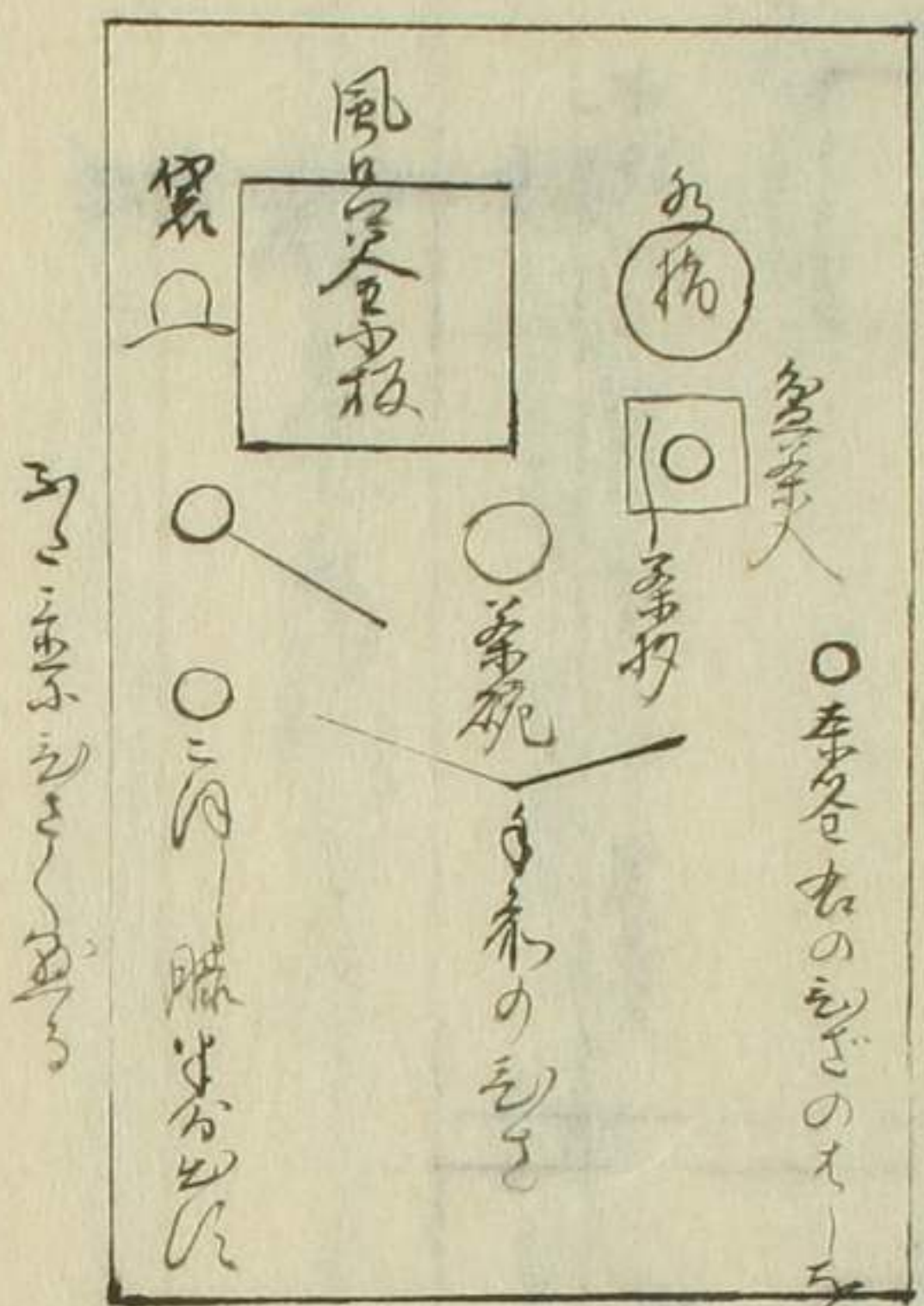
但利葉も前の液別ハ濃葉の風呂  
 前より〜

風呂盆を立兼入候様入給





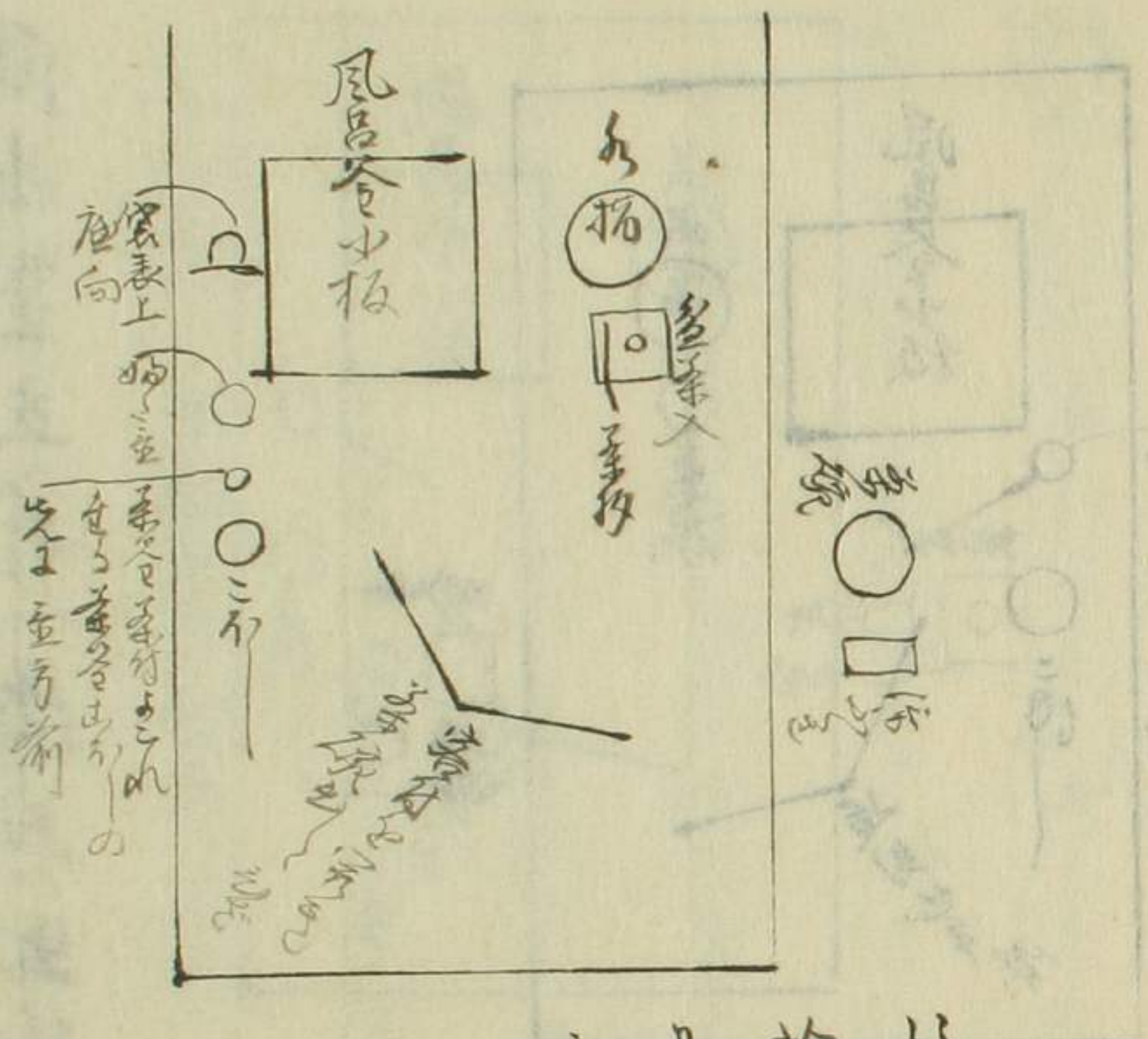
風呂盆立茶室の茶



茶室の窓のところに茶杓を置く

風呂盆立茶室の茶

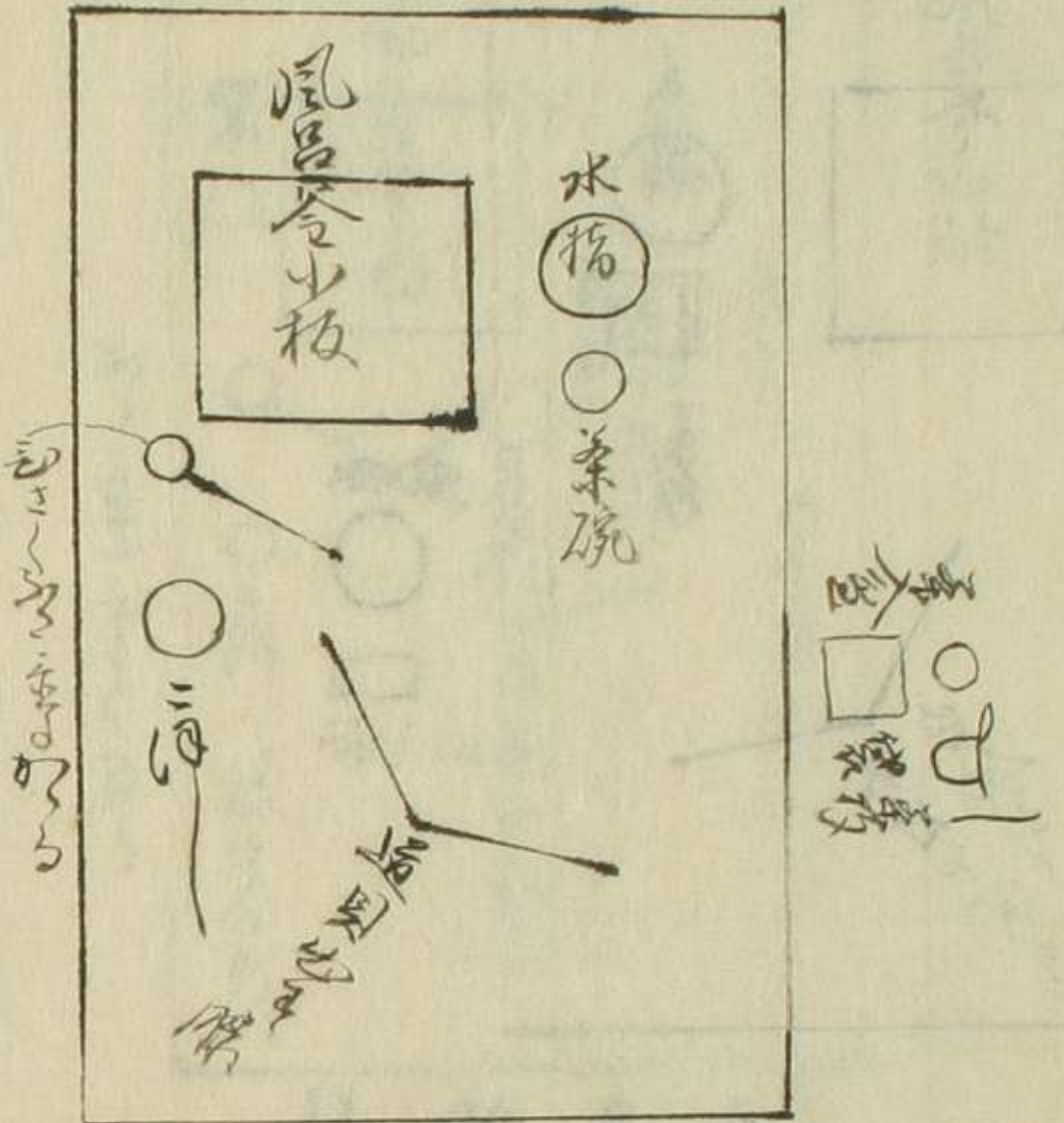
風呂盆立茶室の茶碗茶杓茶室の茶



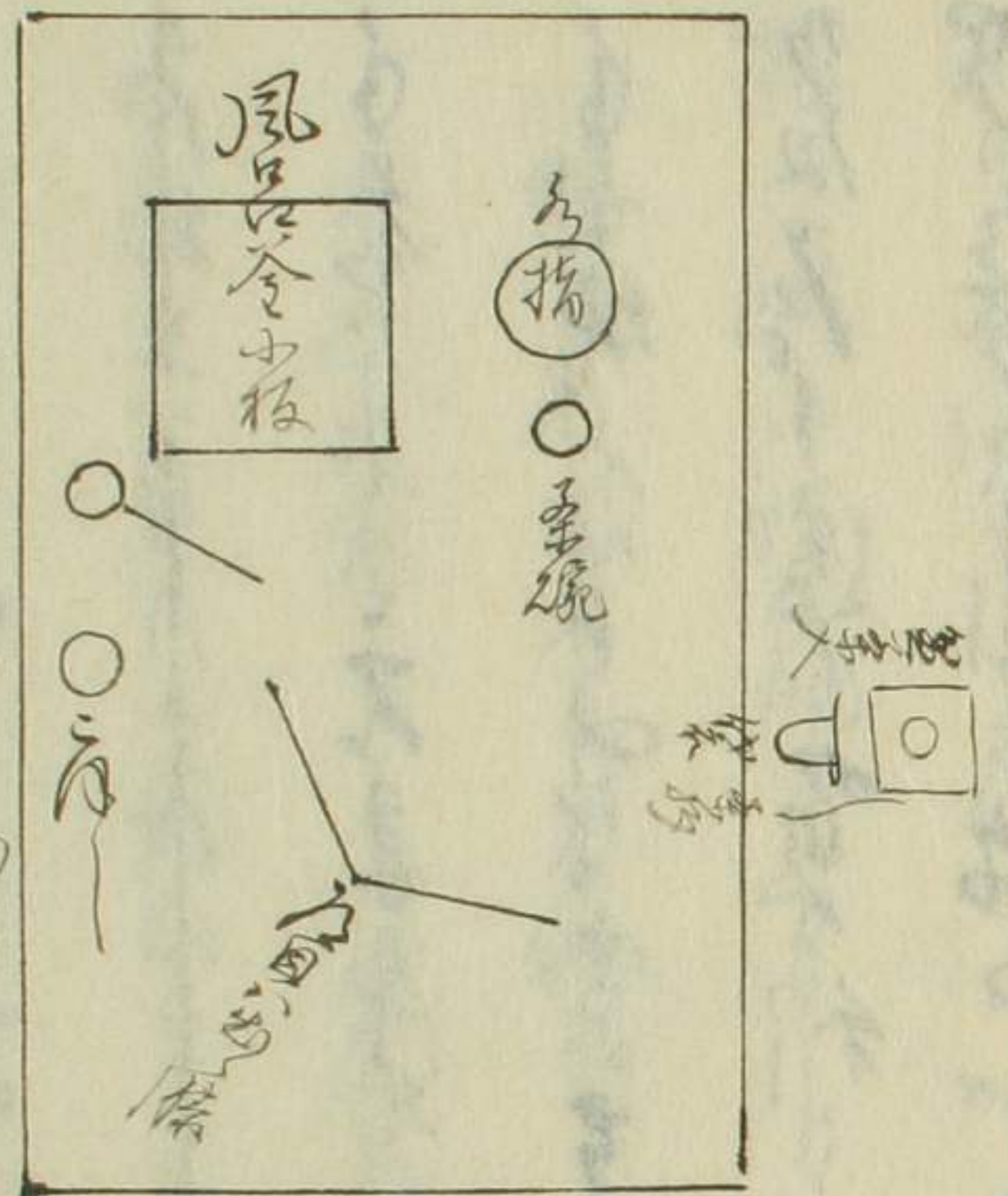
茶室の窓のところに茶杓を置く



風呂盆立客（道具出板の分）



風呂盆立客の茶入盆小京出板





唐物茶堂立

一 茶堂立ハ茶堂ノ立向度物立トシテハテ  
唐物立ハ自外ハ唐物立トシテ茶堂立ハ池ノ唐物立  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極  
トシテハ一ニエ来唐物ハ大切成在日ノトハ極

茶頭立トシテ茶頭立

一 主人大右の名物ハ茶入ハ初茶ノ多キ茶座内也  
由之抽服ノ内座ノ上トシテの方ハ茶入ハ膳上  
百ヶ條の御茶トシテハ一トシテハ一トシテハ一

世主人大右の名物ハ一トシテハ一トシテハ一

主人大右の名物ハ一トシテハ一トシテハ一

主人大右の名物ハ一トシテハ一トシテハ一

主人大右の名物ハ一トシテハ一トシテハ一

主人大右の名物ハ一トシテハ一トシテハ一

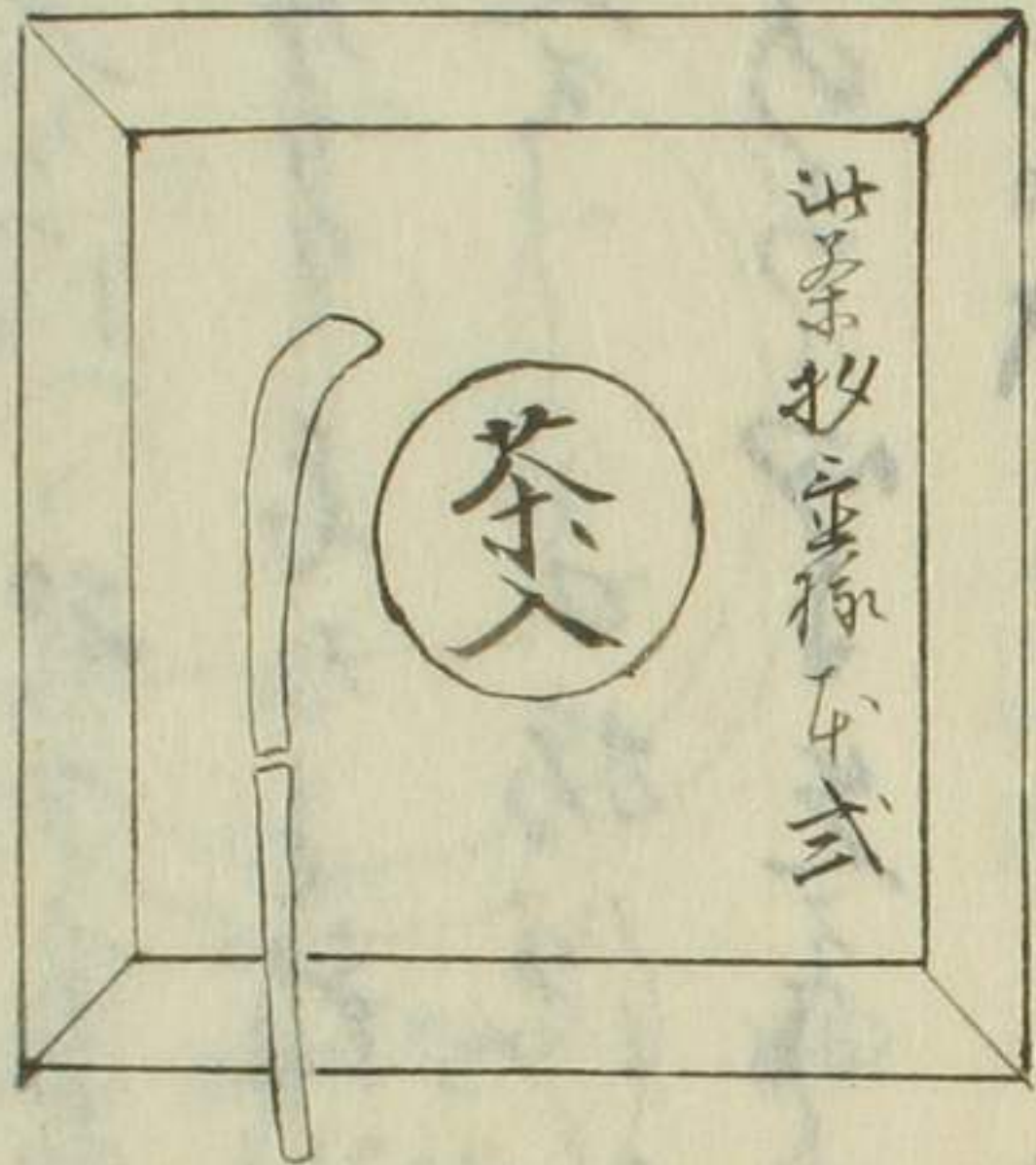




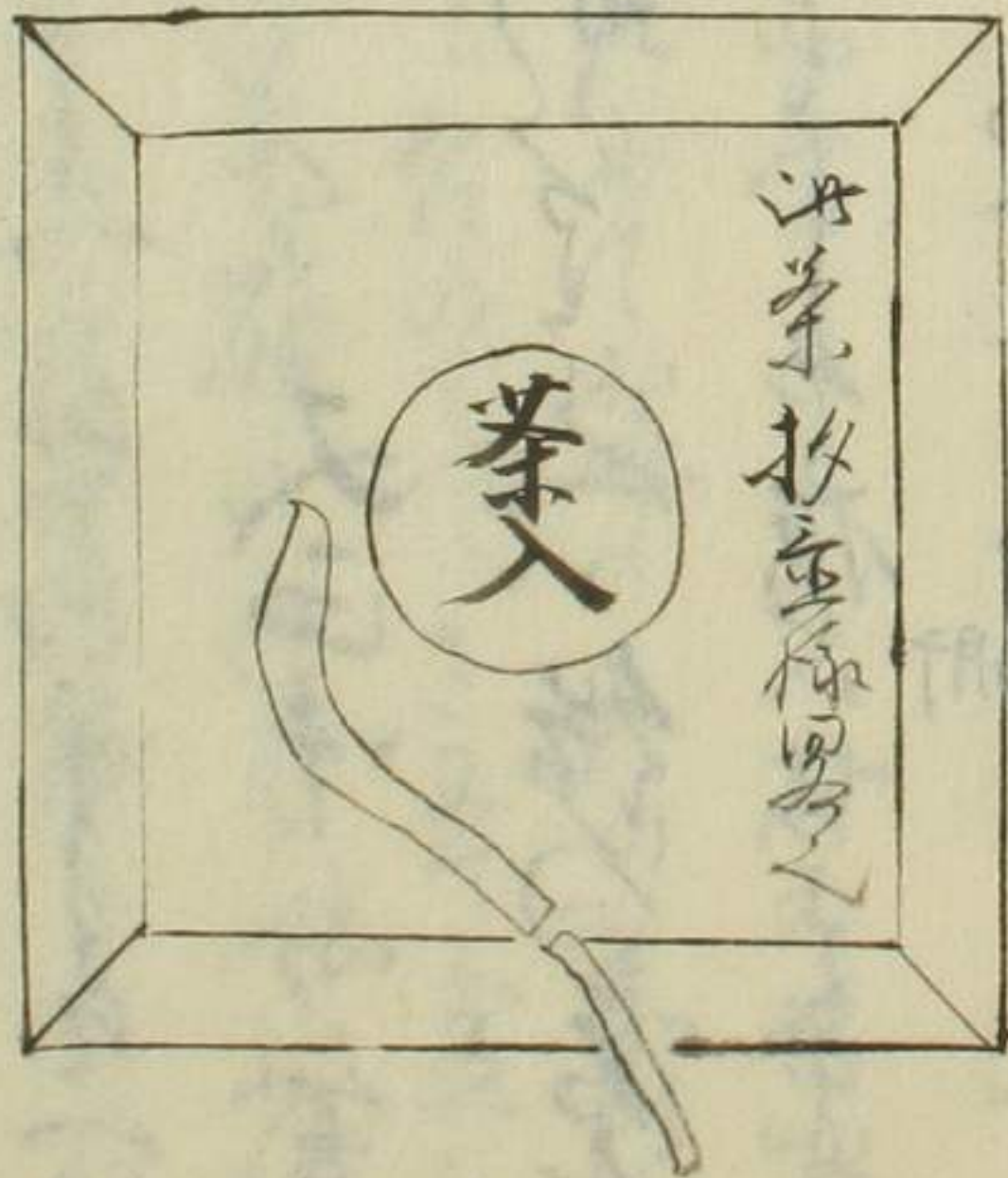


右四方盆六神のてし主生之好する下を  
 少く出付のし水より上りりり又右後  
 とし不空なるしつてし七前後しあま  
 するし好するも不空なる神の生なる  
 少く後下より何れも水より上り好する  
 あり

四方盆茶抄宝標



右茶抄宝標北橋  
 ののりしこ茶入の  
 右也何れ茶入より  
 掃子の方也



右茶抄宝標北橋宝標  
 中より四瓶半より大同寺し  
 より掃子何れ第一也此宝  
 標より何れ此宝標何れ





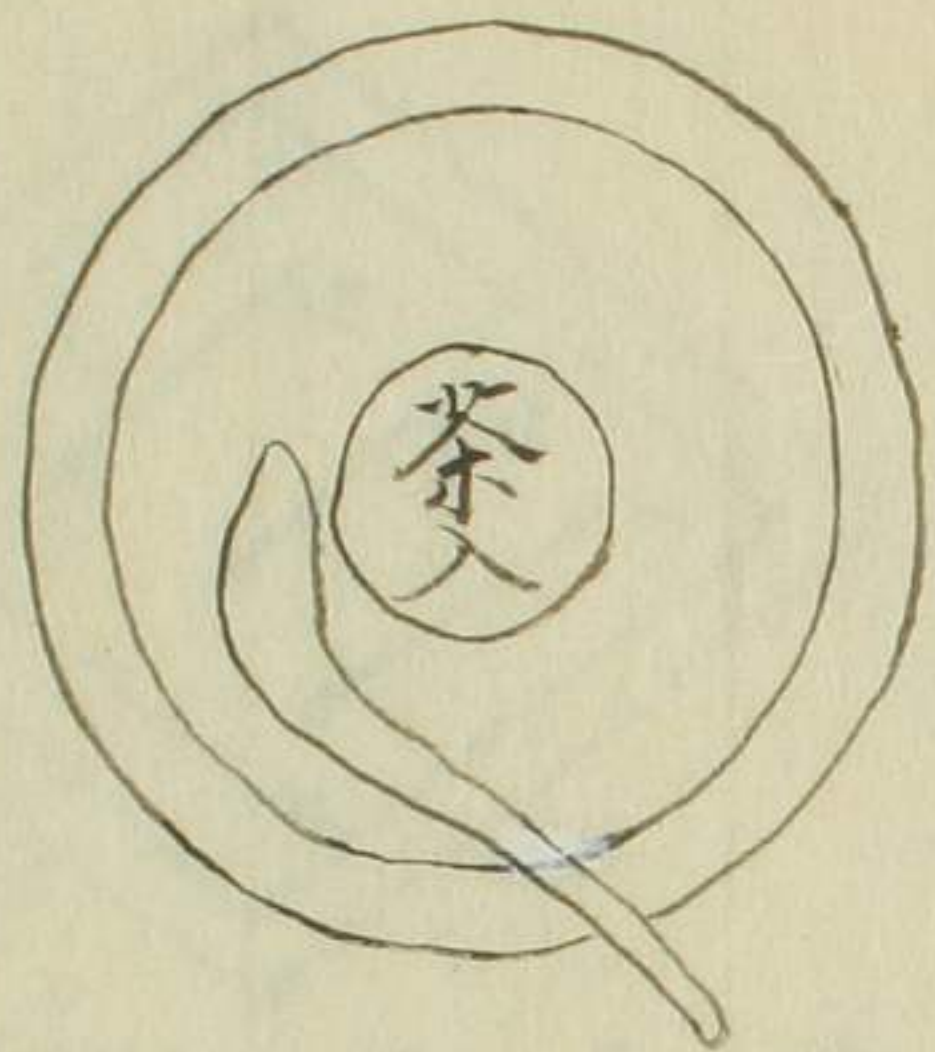


右圖の如く初めに茶をいれ湯を注ぎて  
 出所は上より上へ又茶後と茶をいれ  
 うへ茶をいれ茶後と茶をいれ上へ  
 茶をいれ湯を注ぎて茶をいれ湯を注ぎて  
 茶をいれ湯を注ぎて茶をいれ湯を注ぎて

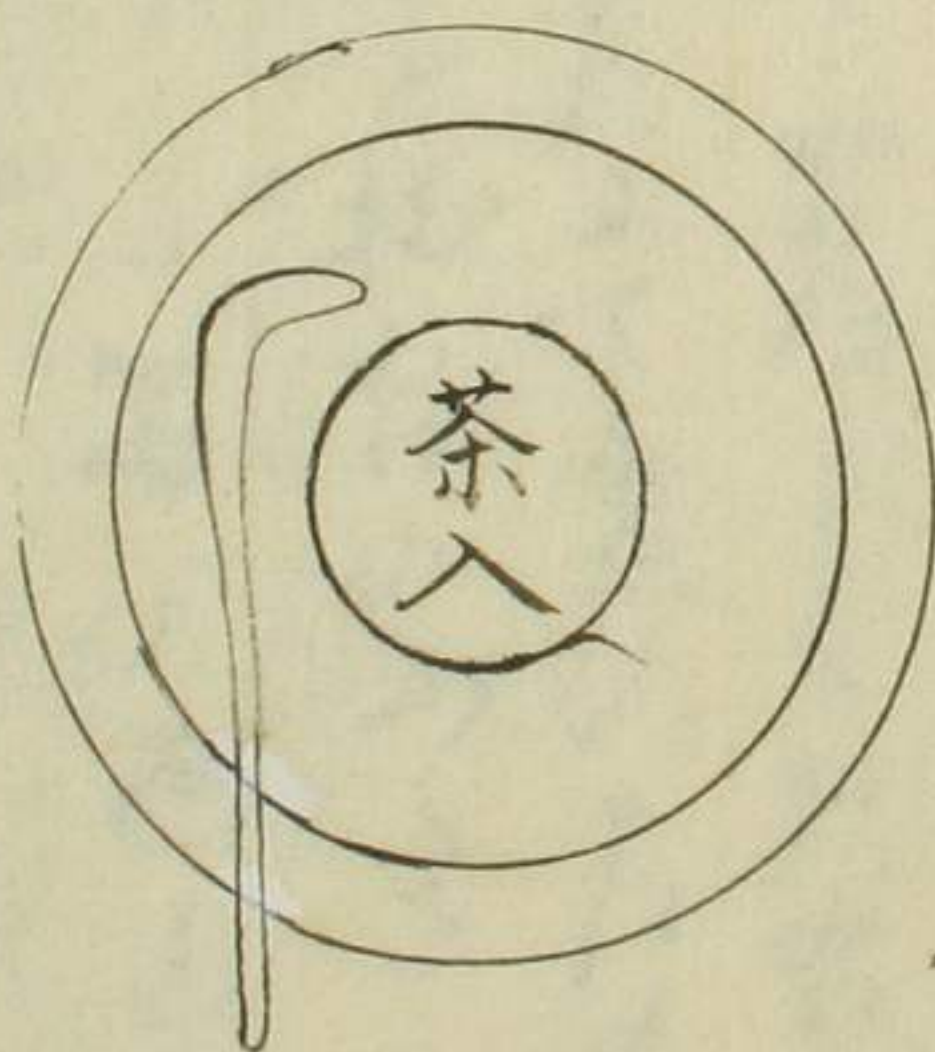
茶の入れ方  
 茶の入れ方  
 茶の入れ方  
 茶の入れ方

茶の入れ方

茶の入れ方



茶の入れ方

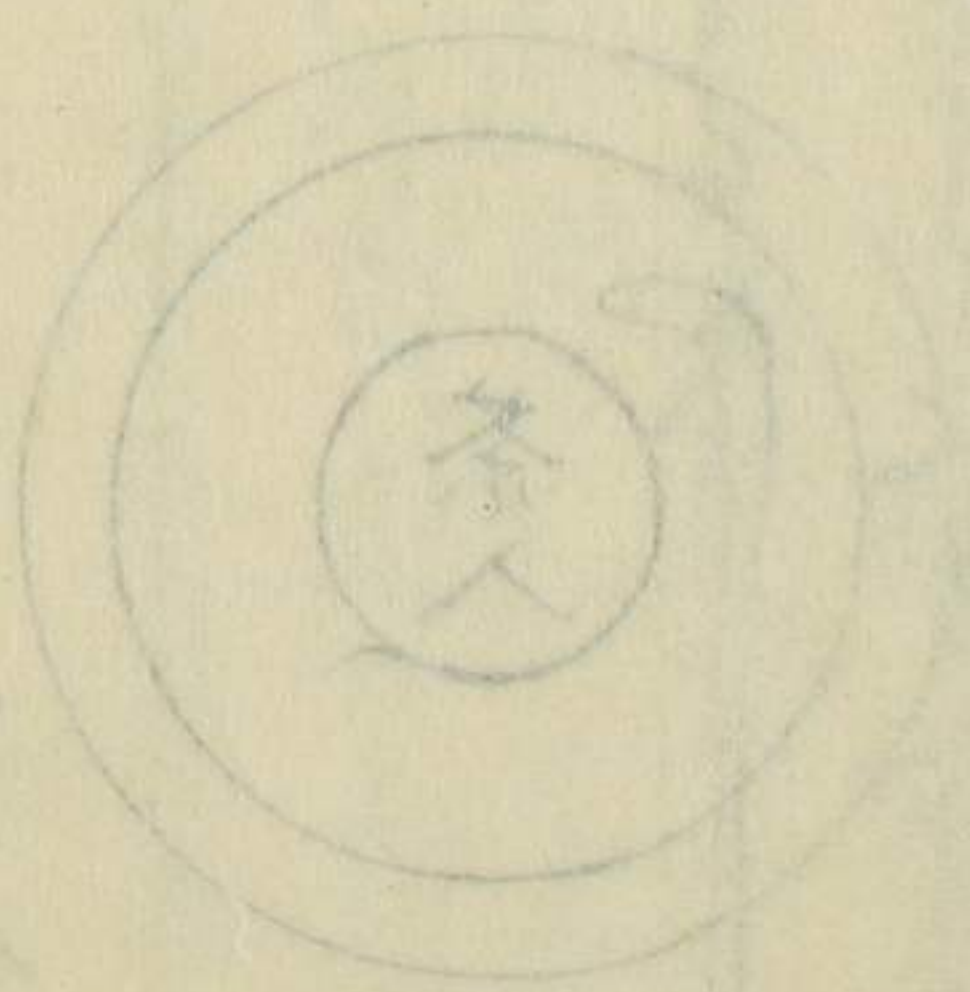


茶の入れ方  
 茶の入れ方  
 茶の入れ方  
 茶の入れ方



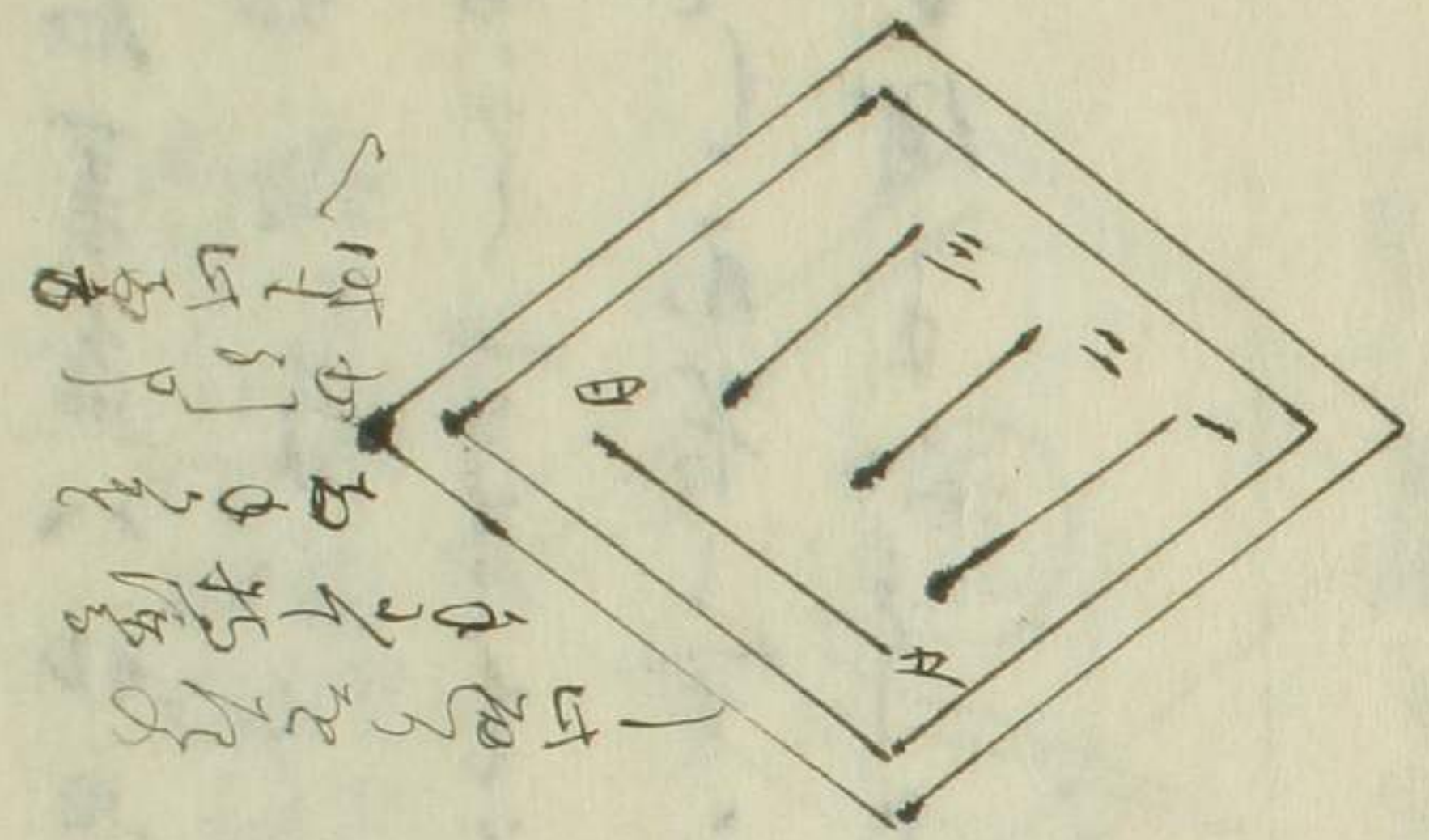
大角盆は茶入の角盆よりハ正仲な  
 四方盆より様向

又角盆の角は角より角盆の方を好



茶入の角盆は角盆の方を好  
 茶入の四方盆は四方盆の方を好

菱盆



物くさやたさる記名の指し  
 は持たせて盆の片め  
 の茶と持者のめさめ  
 物まの海の海  
 常の持者のめさめ  
 非持者のめさめ  
 持者のめさめ



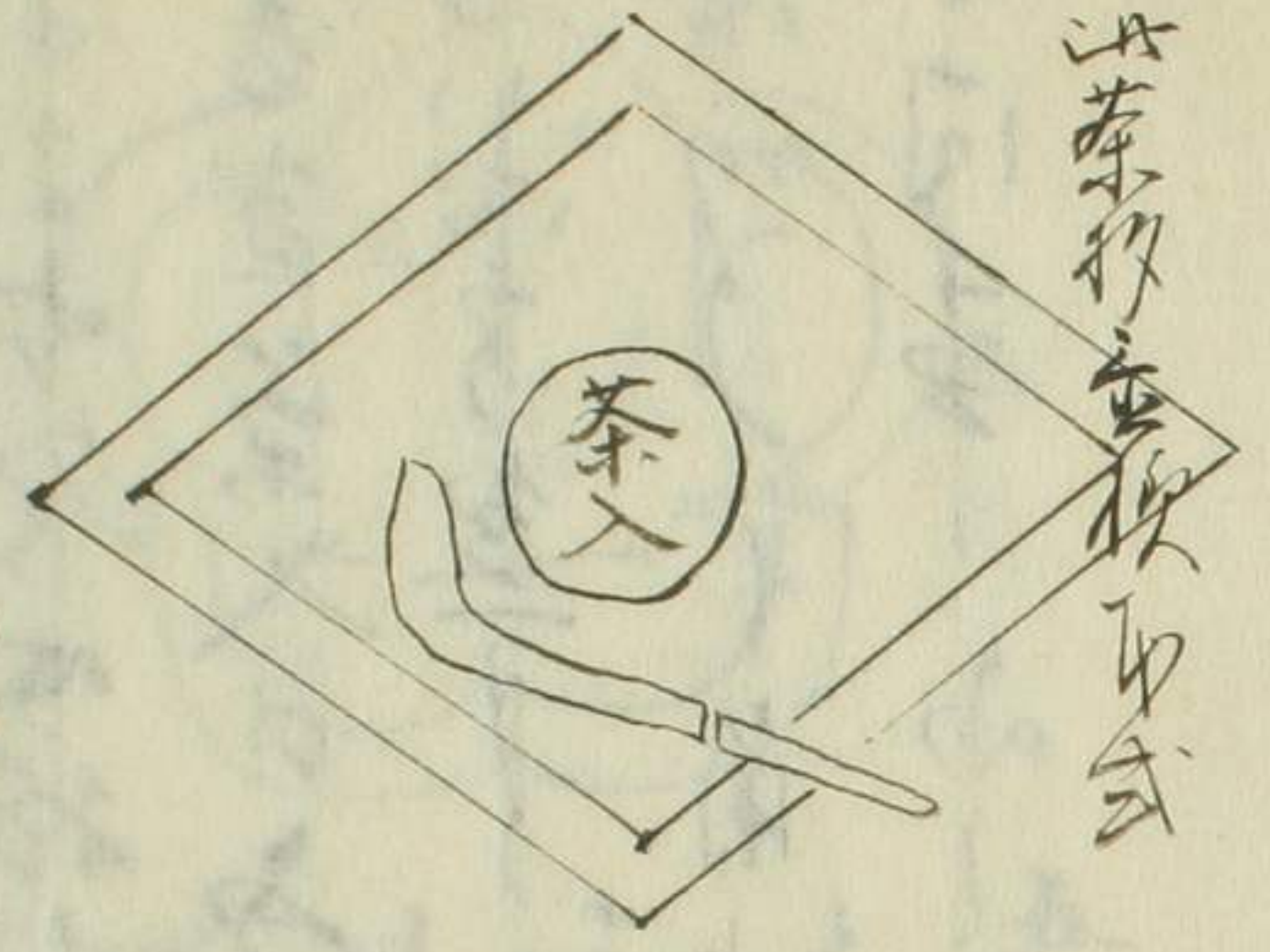
右菱盤ハ袖裏ノ不立取ノハ好ミ可ク  
 物付ハ小トシ上ノミヤ山又前後ト立  
 取ノミヤトシ前後トシ小トシ上ノ好  
 取トシ不立取ノハ初ハ立取ノハ好ミ可ク  
 小付ノハ好ミ可ク上ノ好ミ可ク



茶入

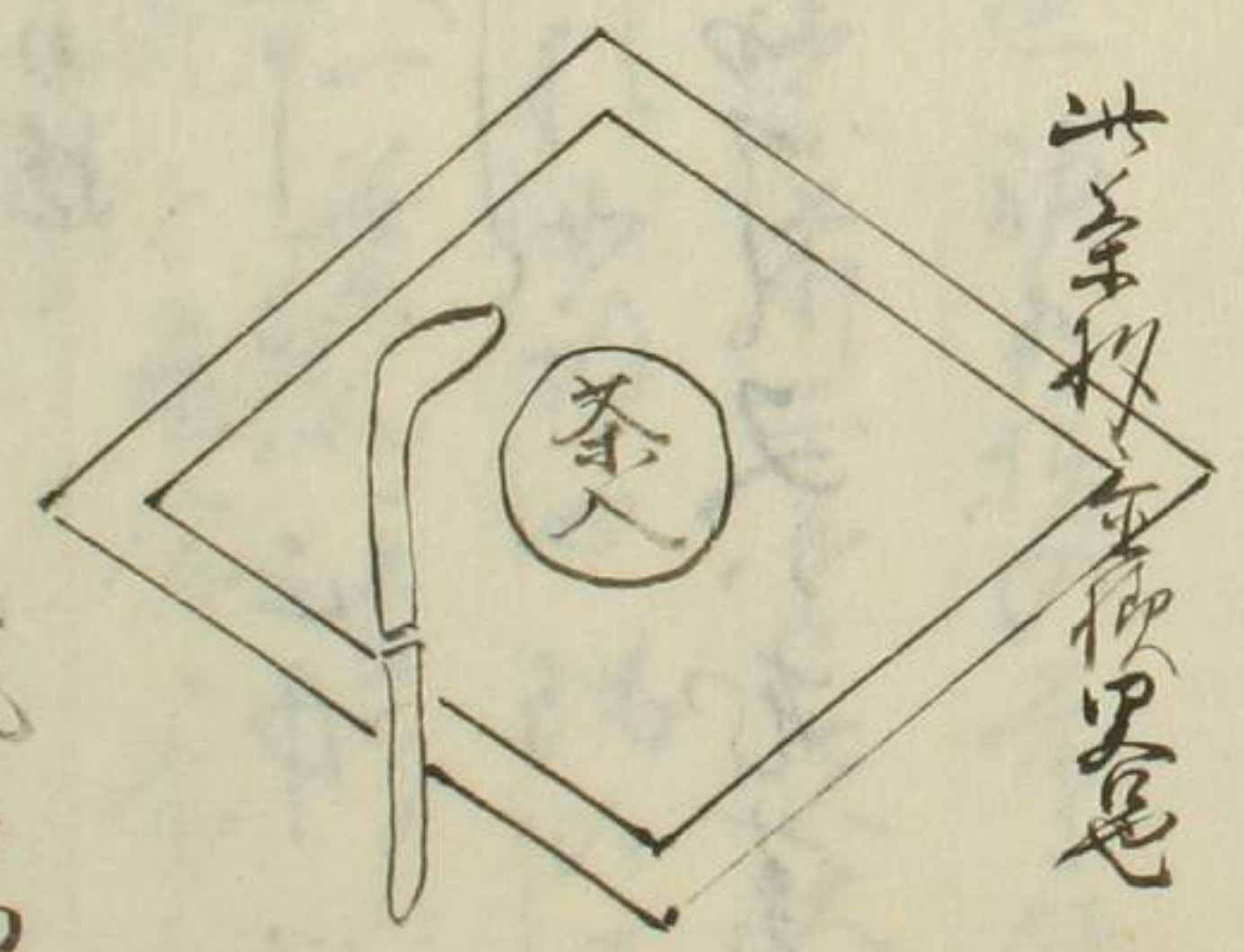
菱盤茶抄立取

此茶抄立取也



右茶抄立取也  
 大目向切出爐ト立取

此茶抄立取也



右茶抄立取風品向切角  
 爐ト立取 此稿トハ  
 此茶入トハ好ミ可ク也

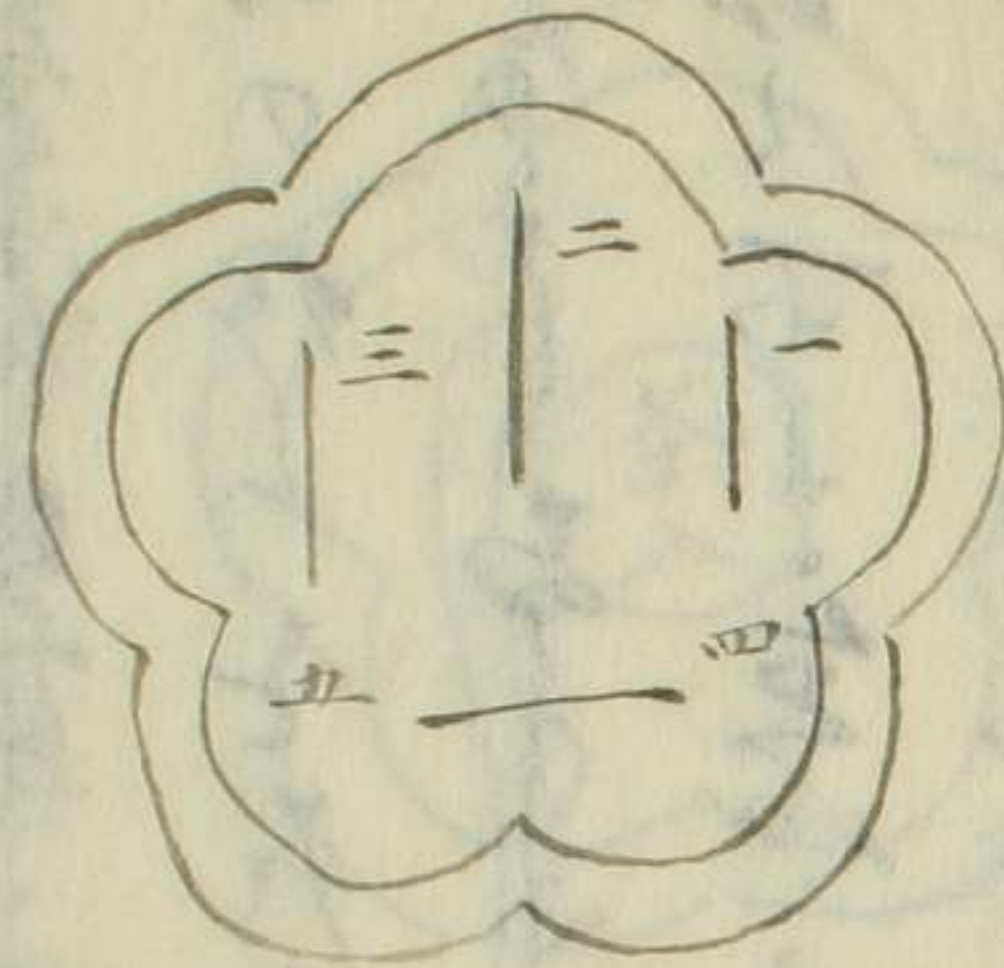


右葉盆ハ大目少ク水指ありてん一筋あり  
 又右極少ク水指の筋より重くハ同ハ水指  
 の筋より少クハ四指ありてん物  
 右葉盆茶入の少クハ一筋ありてん心中  
 ありてん方少クハ一筋ありてん  
 又右角ありてん角沖増ありてん又ハ右葉小  
 ありてん同少クハ一筋ありてん

茶入茶盆の筋

茶入茶盆の筋

五葉盆



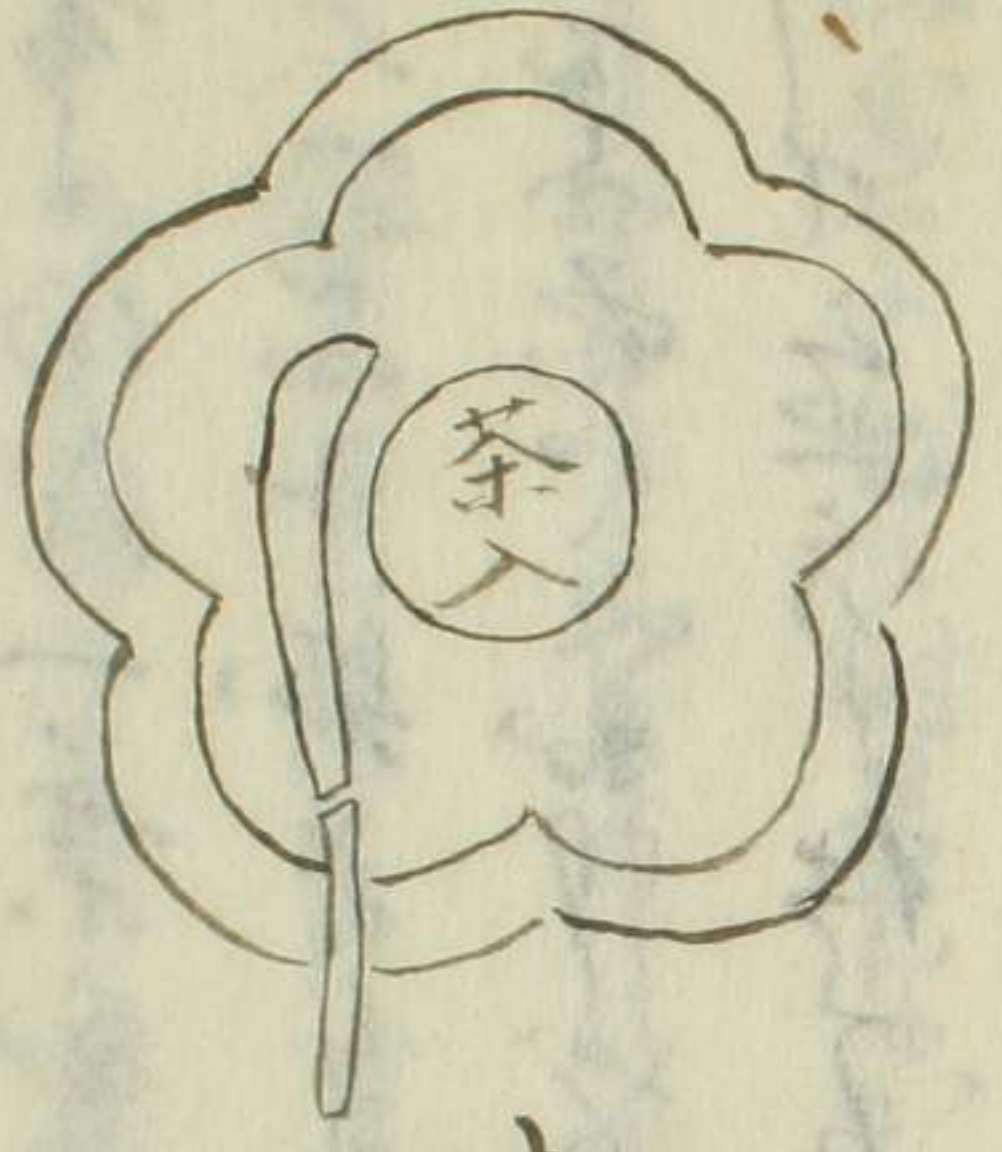
五葉盆ハ神水指の筋より  
 右ハ一葉前二葉先大目  
 左ハ一葉少クハ四指の筋  
 具ハ一葉を右方より  
 也茶碗と重くハ右方より  
 引る筋より少クハ一筋ありてん  
 右ハ一葉ありてん



右の葉を包むと何れもさつたさしとささ  
 指あてておとて方通の中ゆく茶の包  
 方を寄付の口一命あとおもてあつたの  
 おのゆりてたかてお茶の包をさつたさ  
 指あててあててあててあててあてて  
 ちのてあててあててあててあてて  
 ちのてあててあててあててあてて

甘茶餅

右の葉を包むと何れもさつたさしとささ



はつた二葉茶

右茶抄大目四指寸向切風長ともちり  
 茶の包むと何れもさつたさしとささ  
 右五葉茶包むと何れもさつたさしとささ



おらひのうらぎのり ねんり

一五葉分二の本爪 梅花格梗 梅花格同を  
方ののうらぎのり ねんり 梅の上を水防の  
葉の何れ一葉あやまき、生さつと物の道具  
少一葉と舞と 重方とく 又梅所力彼に  
二葉分やとわりの文てありて是れ一葉の上  
かへて重方の付るわりの ねんりを物さす時  
ふれ上り糸を向ふも 一葉分と重方と  
さへ、おらひのうらぎのり ねんり 梅の上を水防の

二葉分と重方とく 又重方とく 葉入の重方と

さへ、おらひのうらぎのり ねんり 梅の上を水防の

ねんり 梅の上を水防の

さへ、おらひのうらぎのり ねんり 梅の上を水防の

但しおらひのうらぎのり ねんり 梅の上を水防の

さへ、おらひのうらぎのり ねんり 梅の上を水防の

ねんり 梅の上を水防の

さへ、おらひのうらぎのり ねんり 梅の上を水防の

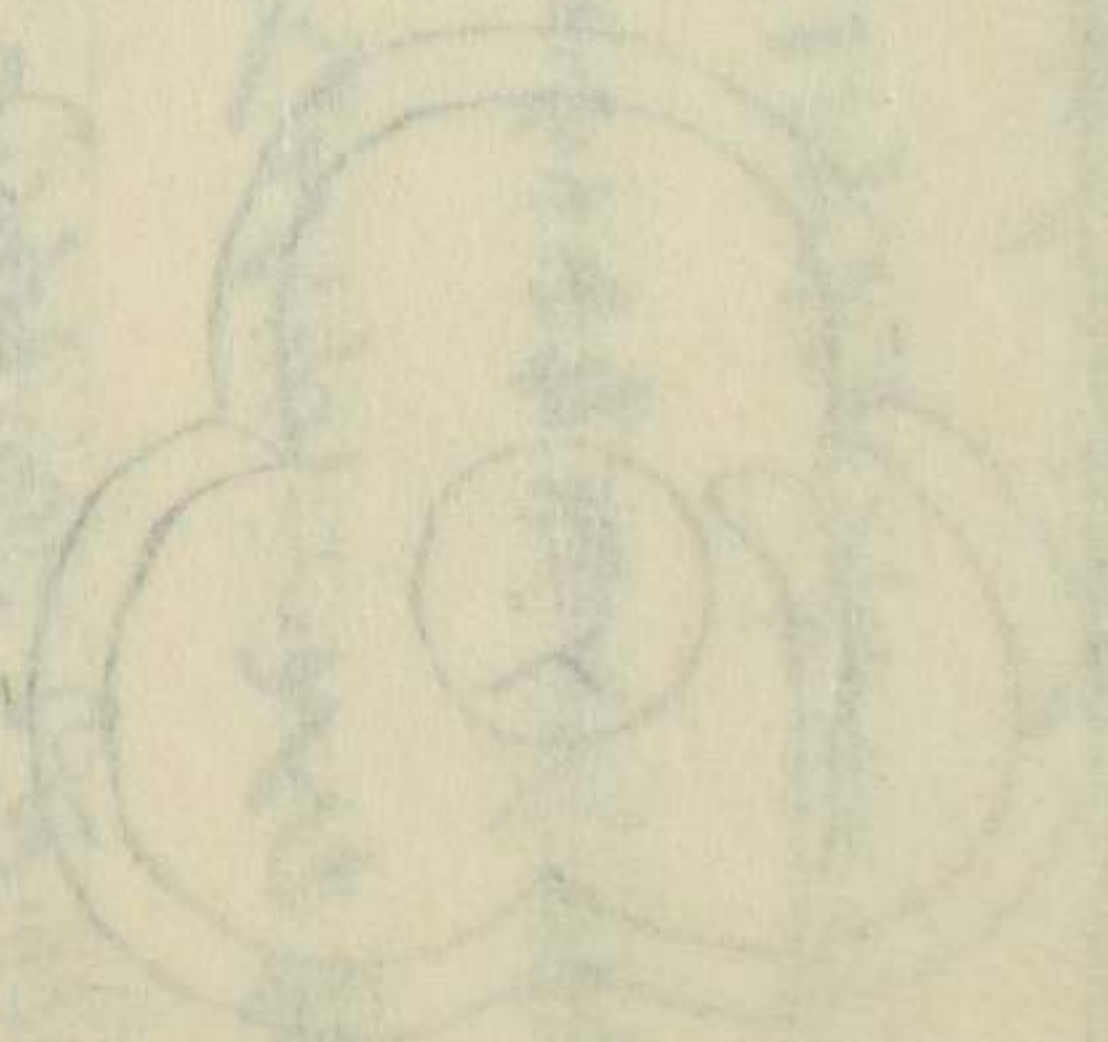
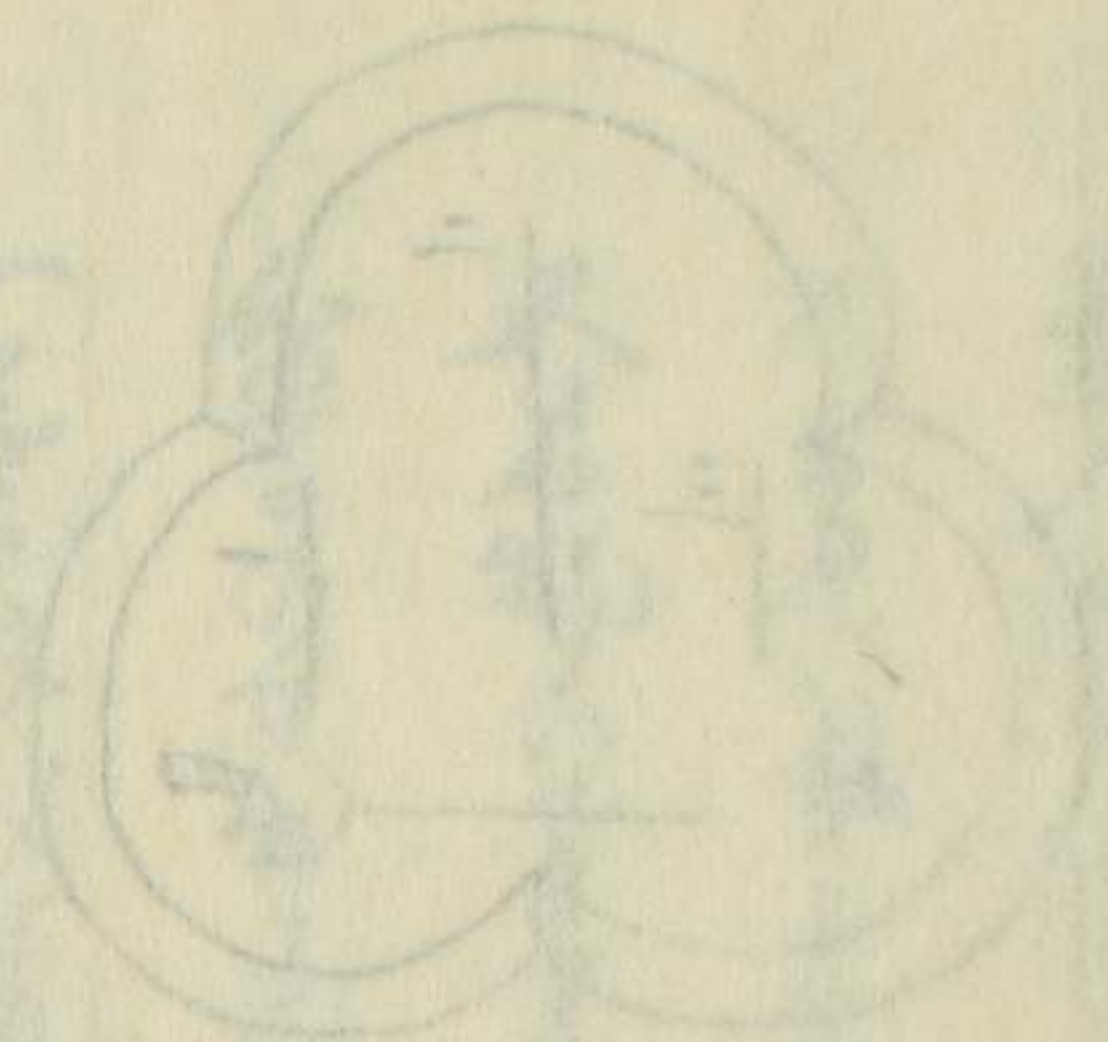
但しおらひのうらぎのり ねんり 梅の上を水防の







右列漢盆始終五葉盆小同  
 滿の道見たりと前小記に記す



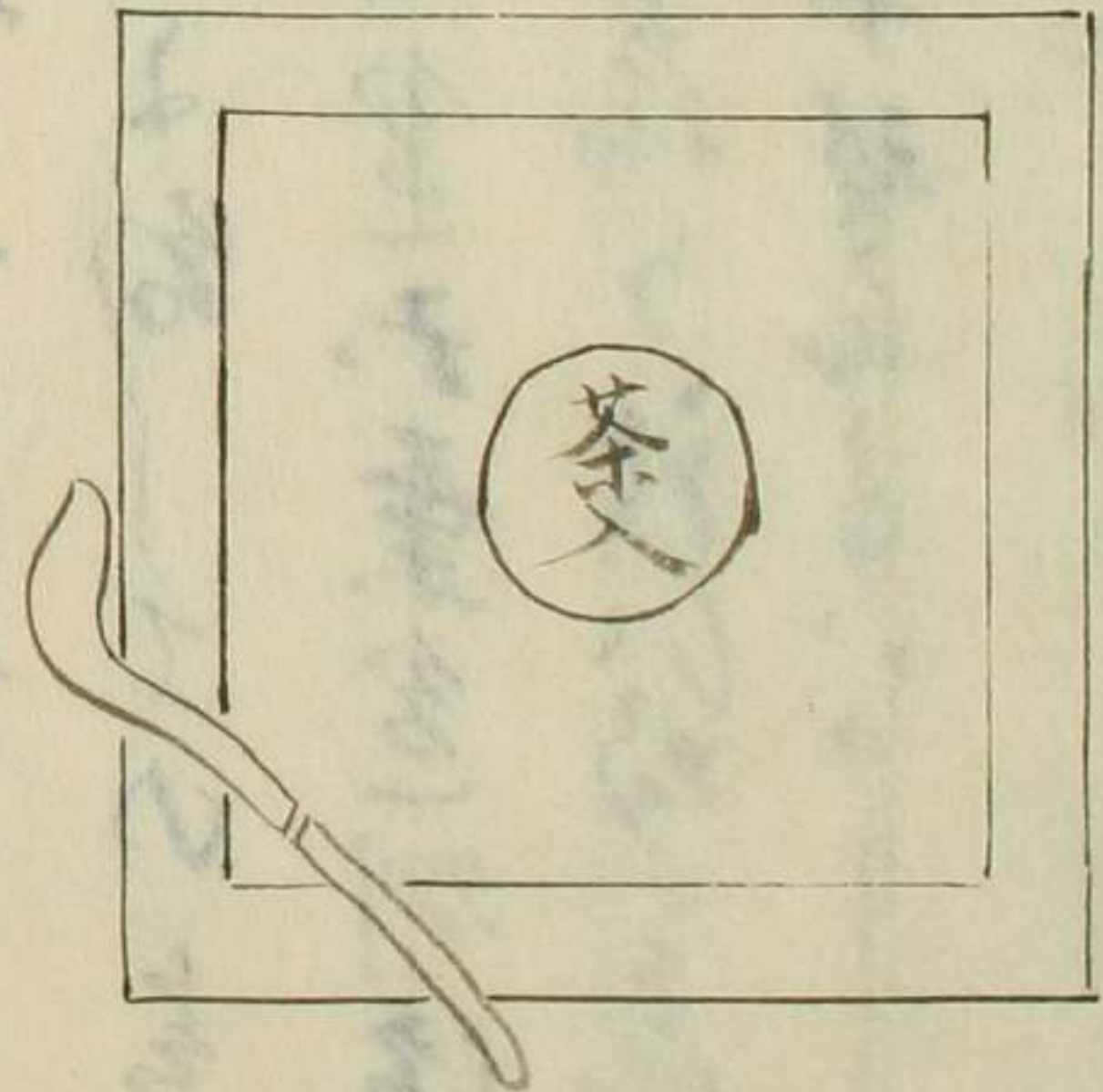
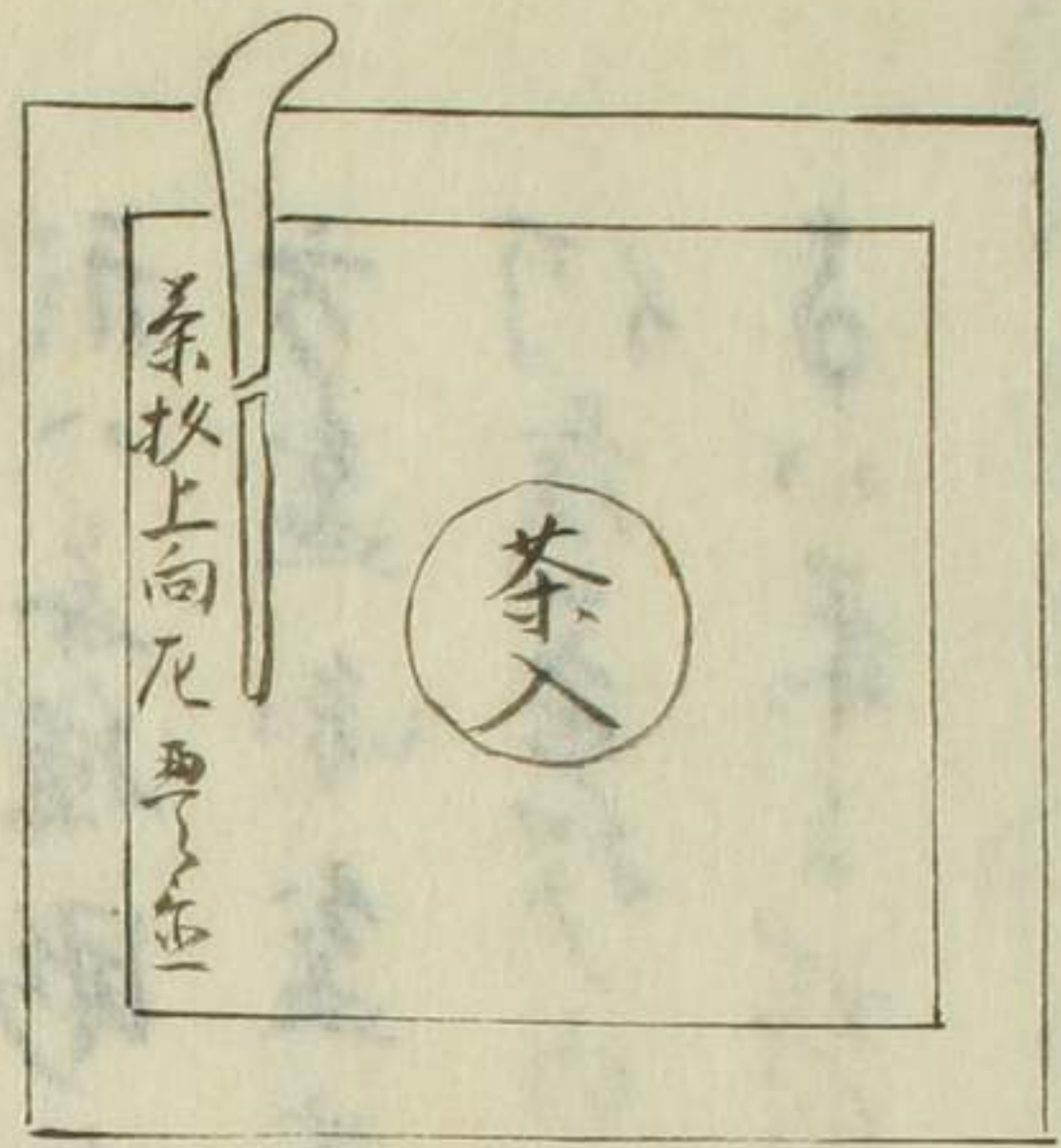
彫物盆

但津戸盆ハ此堆朱堆紅之邦也  
 小種ノ名有極ハ今ノ也

形ハ每様彫物ノ前ノ之也  
 方盆急盆菱盆色玉葉盆別漢盆  
 何れも茶抄の空杯を江戸の  
 子ハ前ノ記に小記あり



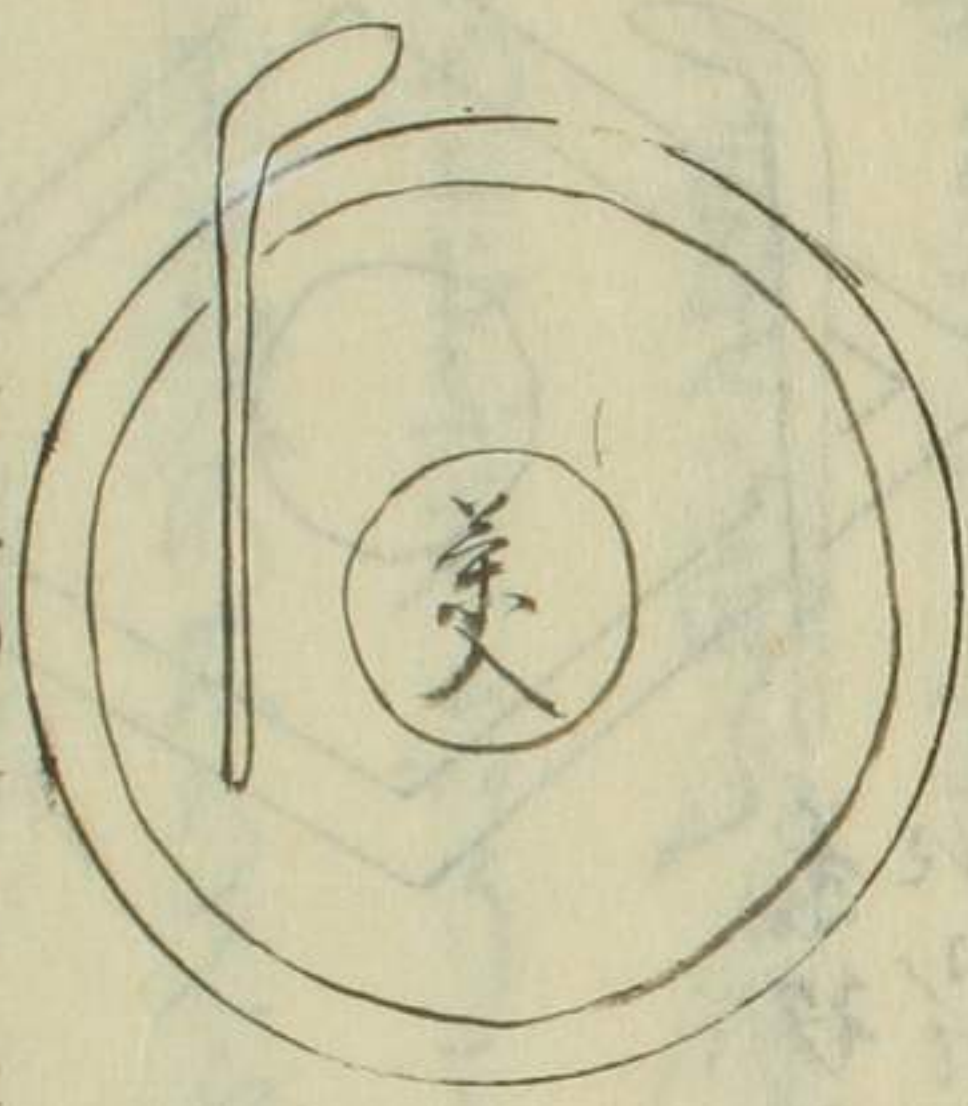
彫物方盆木式茶抄重縁 同畧乃重縁



北傳小小大茶抄  
茶入

彫物

彫物急盆茶抄重縁



茶抄上向凡五寸重

北傳小小大茶抄  
茶入







盆立若人の得

一 寄物糸の物也常

ゆくとくも風懐中 一 信長法師の十徳の信  
風呂桶も麻の巾裏付の履桶の内は信長を  
風呂の巾裏付の履桶の内は信長を

但此の桶の内は信長を信長を信長を  
風呂の巾裏付の履桶の内は信長を  
形は信長法師の履桶の内は信長を

一 巾立の初初屋敷

一 物屋の寄物の糸入の巾裏付の履桶の内は信長を  
一 巾立の初初屋敷  
一 巾立の初初屋敷

但此の桶の内は信長を信長を信長を

巾裏付の履桶の内は信長を

一 巾立の初初屋敷

一 又名物の糸入の巾裏付の履桶の内は信長を  
信長法師の履桶の内は信長を  
信長法師の履桶の内は信長を











但乃乃多奈乃乃水移入りて其の戸母皆其を  
宜しきも皆しきも其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
流す其の戸母皆其を  
ゆきその戸母皆其を  
又二百人の留り

一 けりて其の戸母皆其を  
をりて其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を

其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を

一 又其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を

一 其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を  
其の戸母皆其を

但常の戸母皆其を



















相葉入たきくたを原ふもくしきく不  
てゆくしとく又んらと控をくくくくく相  
そくと入類をん相たきくたを原ふもくし  
まねふ部くともくまねくまねくまねく  
と持てちちちちちちちちちちちちち  
て胸をくくくくくくくくくくくく  
まねくくくくくくくくくくくく  
相葉入たきく又ちちちちちちちちち  
まねくくくくくくくくくくくく

世作かきまきくくくくくくく  
又ゆふ葉まきくくくくくくく  
相葉入たきくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくく  
海をくくくくくくくくくくく  
床くくく  
世人くくく物葉入たきくくく  
くくくくくくくくくくくく  
類くくくくくくくくくくくく







と申すれど——裏を返すと此の——えんじゆ  
りうしんは極小の——  
但し大抵と云ふ——  
のき極小の——

初も裏を返すと、  
今も——  
わがわがのぬらふも  
流るるを——

吾の修の——  
但此の吾有るぬらふも——  
流るるを——  
吾の——

一 吾の茶入と云ふも——  
茶入と云ふも——  
相成るも——  
茶入と云ふも——



と儀の方(注)は... 儀の... 也

儀... 有... 儀... 也

入... 儀... 也

一... 儀... 也

儀... 也

又... 儀... 也

儀... 也

儀... 也

儀... 也

一... 儀... 也

儀... 也

儀... 也

儀... 也

儀... 也

儀... 也

又... 儀... 也

儀... 也

儀... 也



のちのち一柄をたし申し主たるたはるのまゝ入有る  
ろくし付るものもせしはけや極く略し結りたる  
物と云ふは極く上勝のもの

一 白魚の鱗皮 各物にまの申しは  
あしらの鱗皮をまゝ入しはるるやまゝ申す  
と云ふ山利

世のあつたししと云ふ万一首尾より  
ししつねるもの付初は多量に色は赤  
あつたししと云ふししつねるもの相成葉物

と云ふ

一 白玉道のりししと云ふは極く上品  
山利は定の礼才一のあつたししつねるもの  
結成はあつたししと云ふは極く上品

併し挨拶申すは極く上品  
あつたししと云ふは極く上品  
はあつたししと云ふ

と云ふ山利  
又若物申すし又云ふは極く上品



上忍のしつゝのあり

又花をうけ付の床へお座をうけの者上手に立現  
も手に床の目せきしつゝのありし然花の姿を  
しものありし大物のなまじりあたまに有床らし  
を色て乃杯の所は乃を世しを色しし生か  
改くわらぬ事入流へお座ししつゝのありし  
いしつゝのありしつゝのありしつゝのありし  
又茶入流の上しつゝのありしつゝのありし  
つゝのありしつゝのありしつゝのありし

毛一床へ上せしつゝのありしつゝのありし  
さふ茶入流より宗上床の前の縁しつゝのありし  
す斗あしつゝのありしつゝのありしつゝのありし  
あしつゝのありしつゝのありしつゝのありし

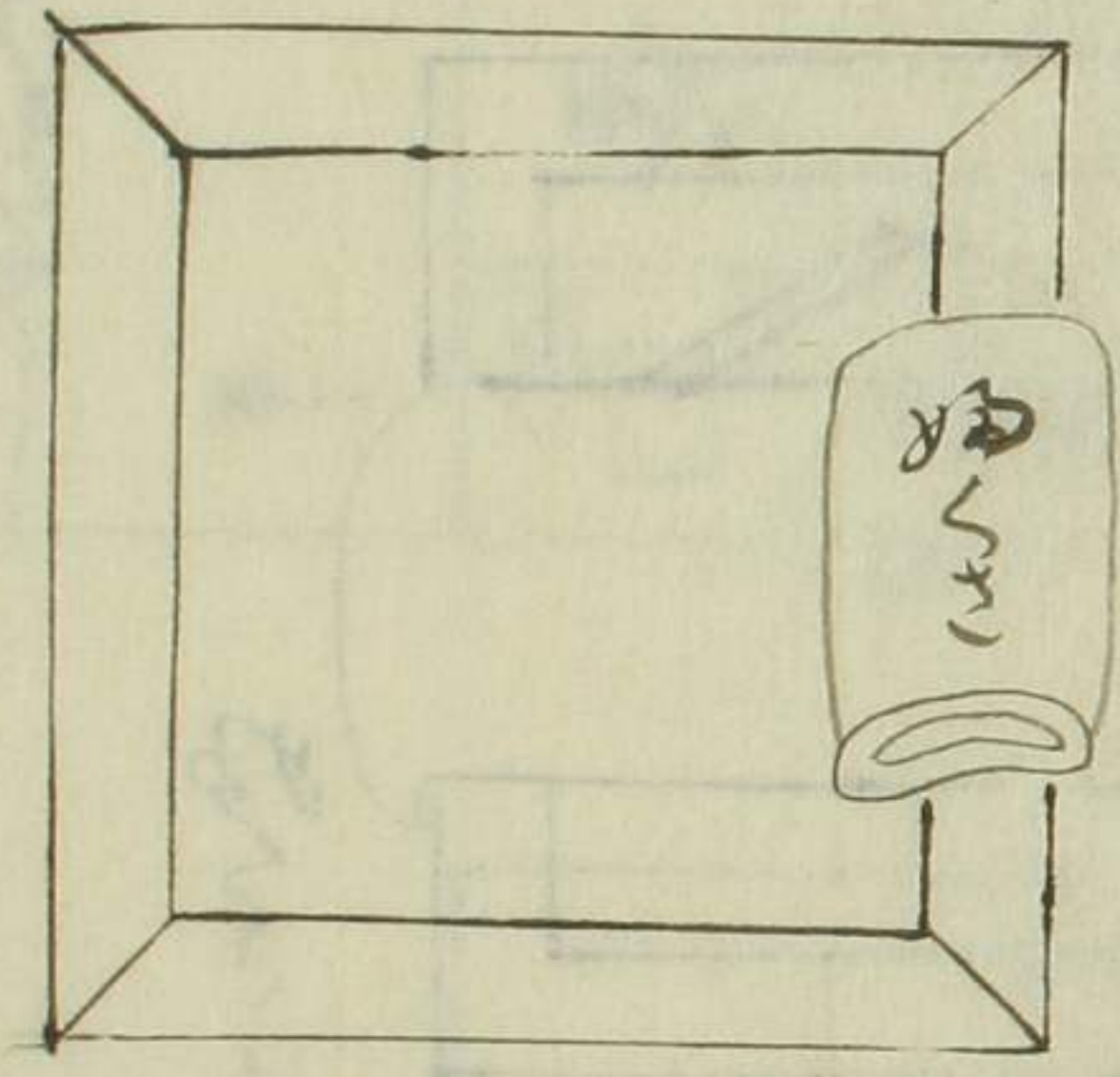
又茶入流しつゝのありしつゝのありしつゝのありし  
同上のありしつゝのありしつゝのありしつゝのありし  
方の茶の角名のうね二名の明へつ斗もつた  
は茶入流しつゝのありしつゝのありしつゝのありし  
他茶入流しつゝのありしつゝのありしつゝのありし



華取探のしるしをみるに  
よし礼をく床の華入のしるし

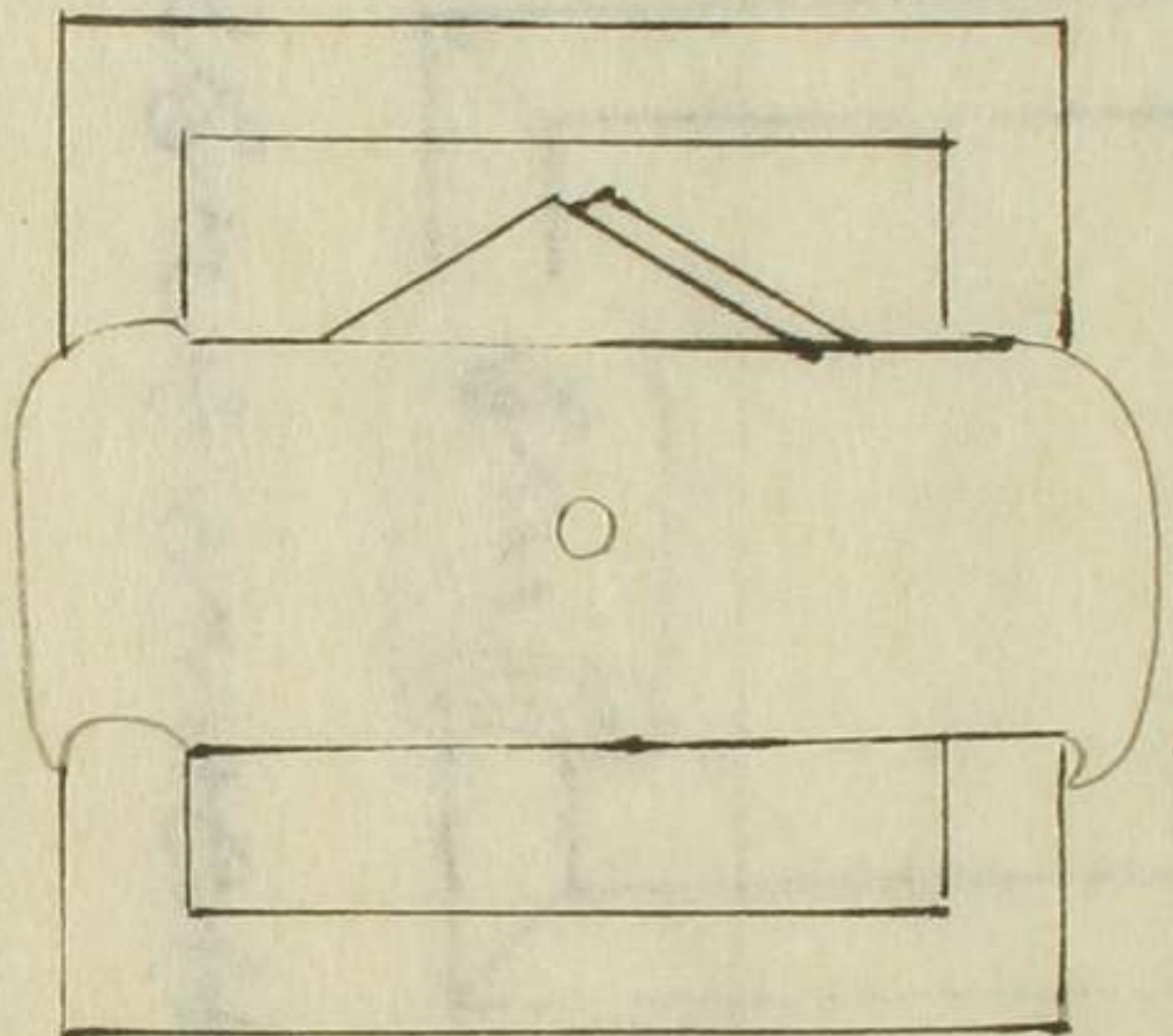
盆ねえの物くさうを彼の若

盆のゆらふのをおき入海に





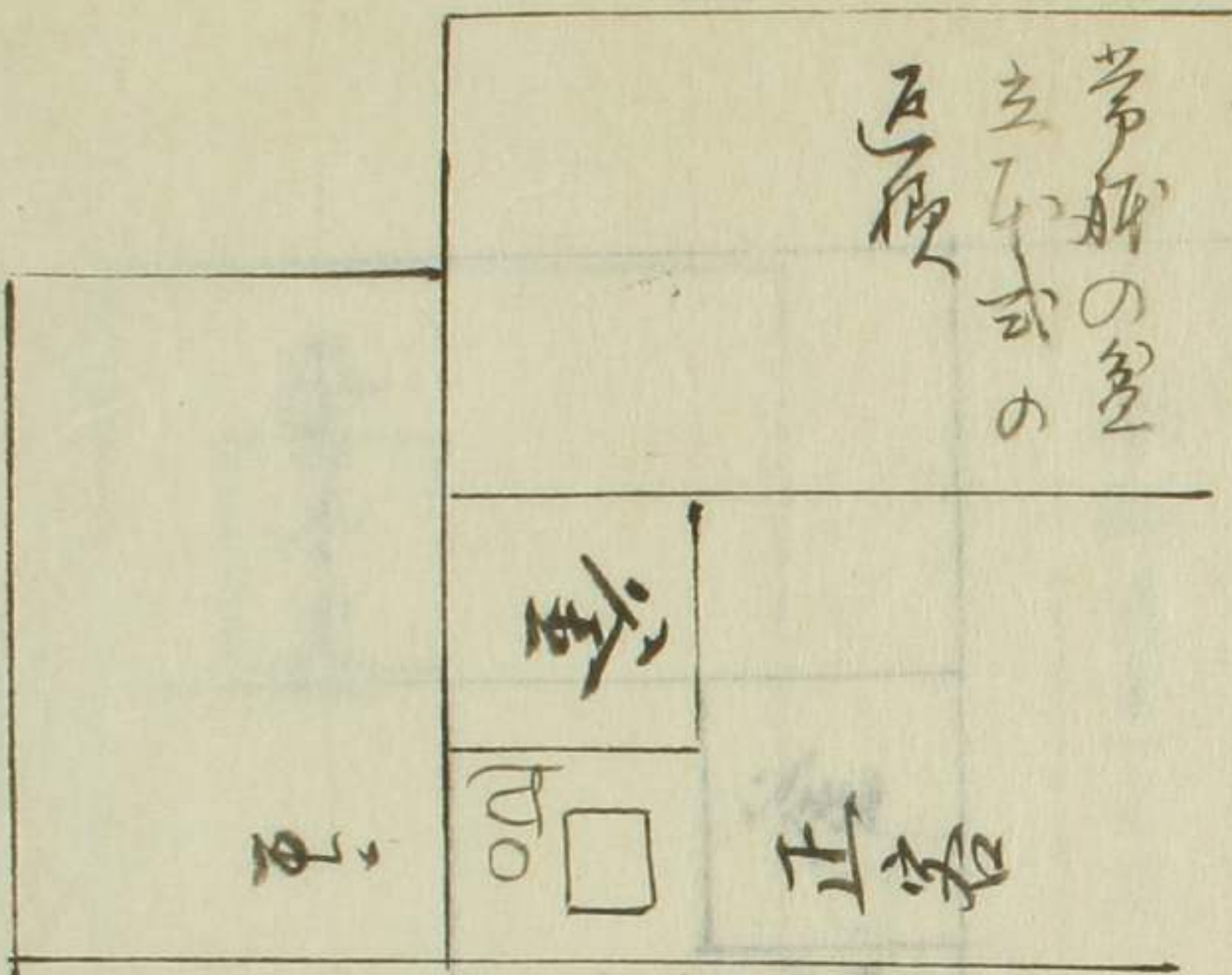
分取入の時裏へ一時的  
 好きうもる



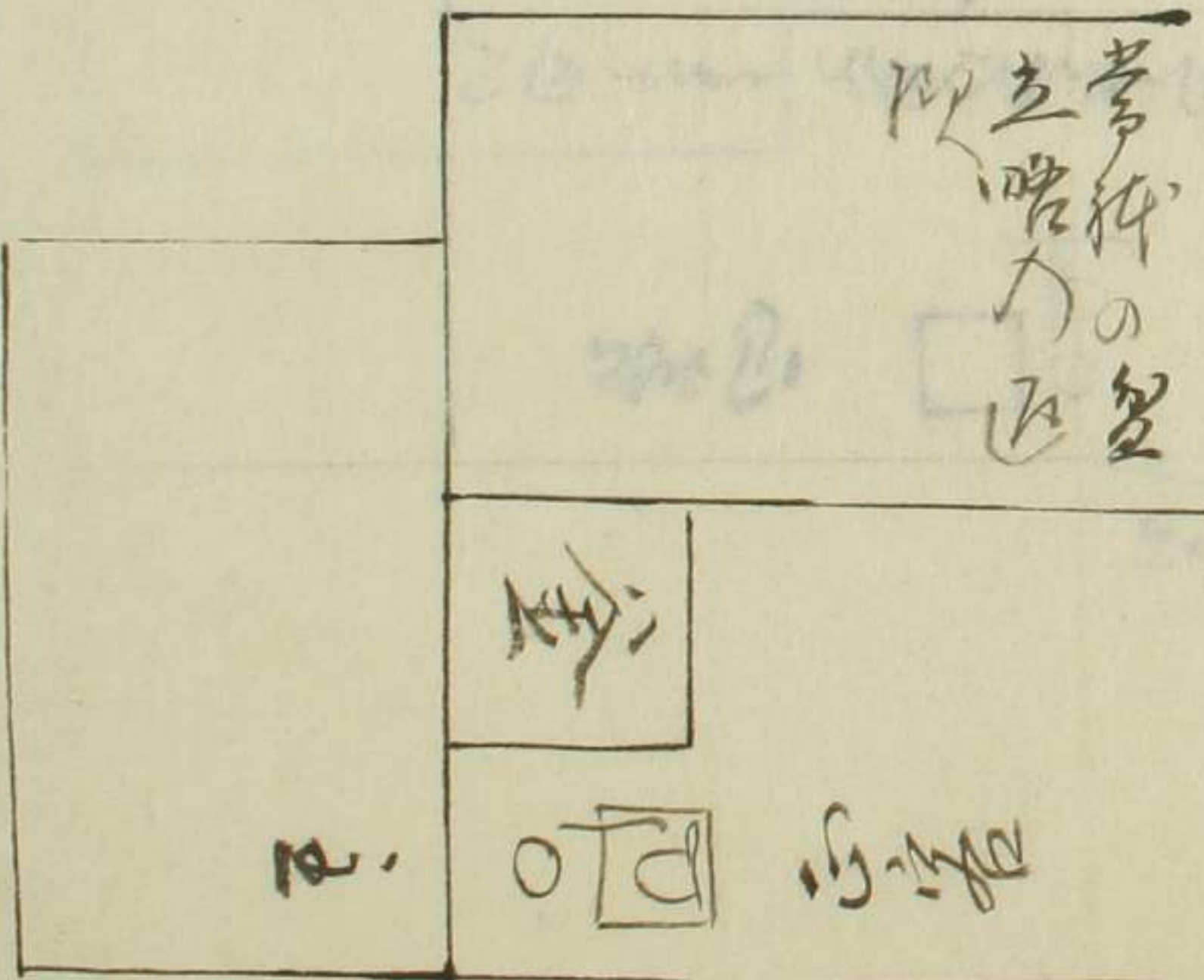
好きうもる角裏(折込)  
 けりあうさあもあ  
 物へかひりしふ  
 けりあうのえ指を  
 地元のあもあ  
 かつ

実より道具返箱大目入

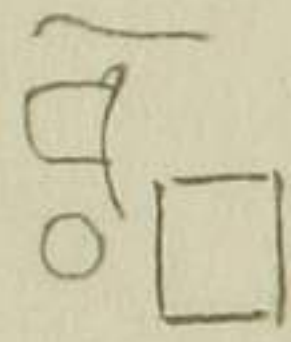
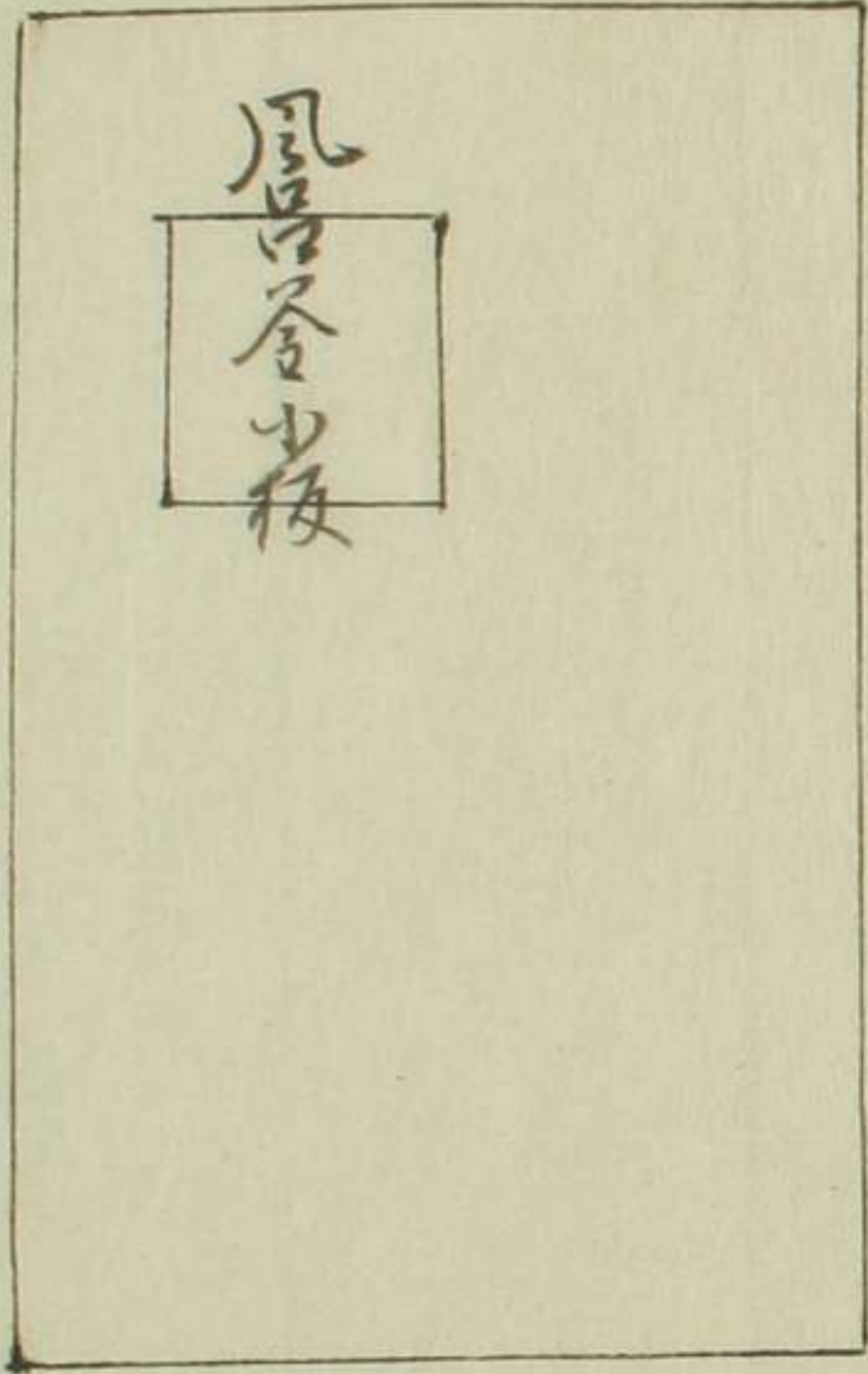
常解の  
 立一式の  
 五夜



常解の  
 立暗の  
 返

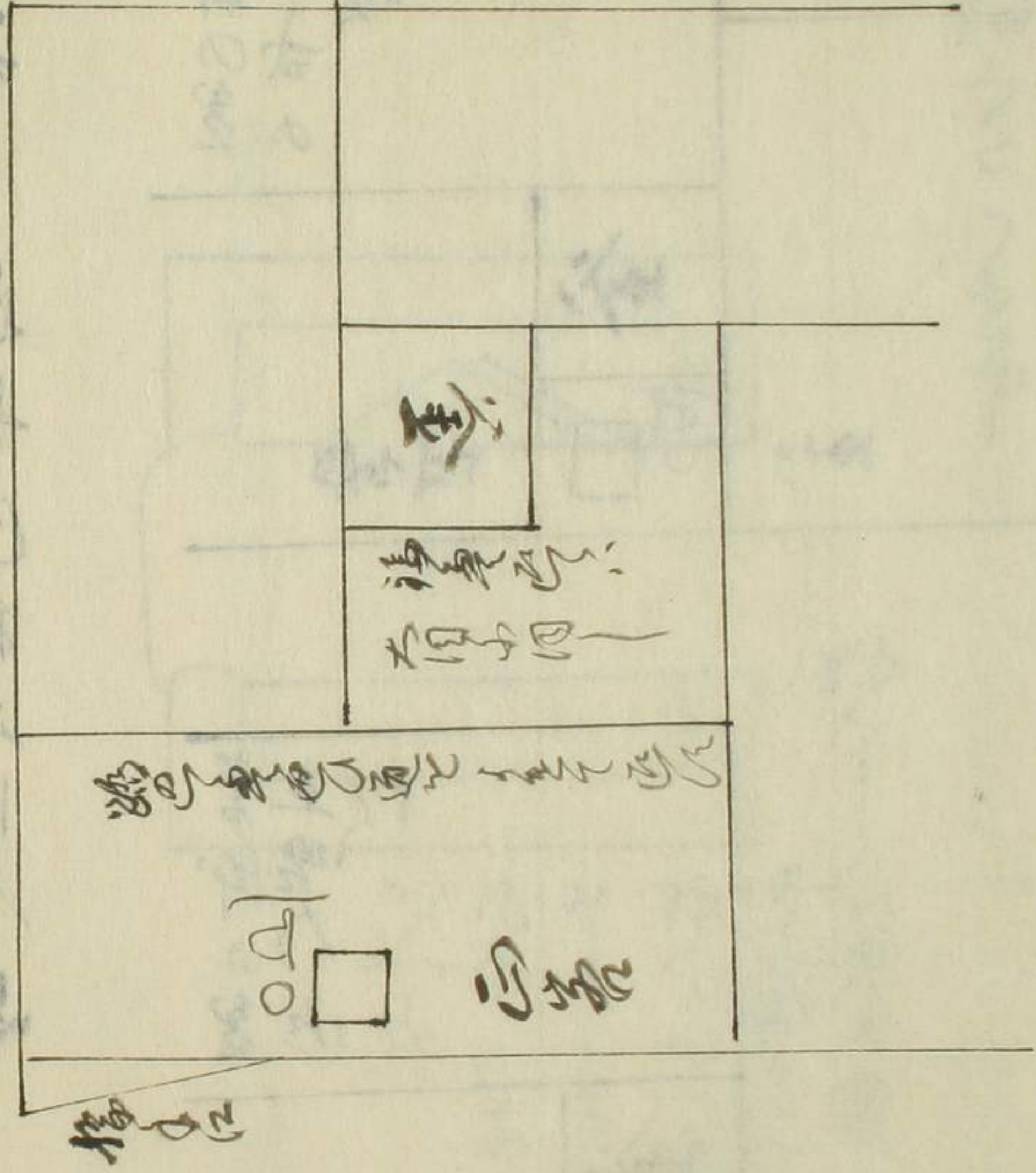






向切はまの目

風呂の付道具の図



四角の付道具の図



